

第5回 国土交通広域連携中部会議 説明資料

議題1

- ・中部ブロックの社会資本の重点整備方針(素案)について ……1ページ
- ・同方針に係る市町村意見対応(案) ……2ページ

議題2

- ・新まんなかビジョン(素案)について ……3ページ

平成21年6月11日

中部ブロックの社会資本の重点整備方針(素案)概要

中部ブロック

中部地方の今後の課題

- 日本のまんなかにある地理的優位性を活かしつつ、地域の活力衰退と地域間格差の拡大に対応した交流・連携の推進
- ものづくり産業の強みを活かした活力ある強い産業競争力の強化
- 巨大地震の発生や集中豪雨、台風による水害等の発生への対応
- 活発な経済活動による負の遺産ともいえる様々な環境問題への対応

中部圏広域地方計画 (中部圏の将来像)

「日本のロータリー」として、
新たな価値を生み出す、個性と魅力
のある圏域を形成

～日本のまんなかから世界のまんなかへ～

●世界をリードする産業・技術のイノベーション圏

●賑わいあふれる国際交流圏・多文化共生圏

●人々が生き生きと、安心して暮らすことができる持続可能な環境先進圏

中部地方の社会資本整備の方針 (重点戦略・重点目標)

①ものづくりをはじめ国際的に強い
産業競争力ある地域づくり

- ・世界的に優れた国際物流ネットワークの形成
- ・国内交通網の強化と高度な物流システムの構築 等

②災害に強い安全で安心な地域づくり

- ・大規模な地震にも強い地域の構築
- ・洪水・土砂災害・高潮、雪害等や濁水に強い地域の構築 等

③地域資源を活かし自然と共生する
環境先進地域の形成

- ・健全な水循環系などを構築し、持続可能な環境の創出 等

④魅力あふれ賑わいと活気ある地域づくり

- ・人、モノ、情報の交流を拡大・活性化 等

⑤誰もが生き生きと快適に暮らせ
愛着が持てる地域づくり

- ・安全で住みやすい居住環境の実現 等

国土交通広域連携中部会議の構成概要

(有識者) 須田 JR東海㈱相談役 松尾 (財)名古屋都市 センター理事長	(県) 村井 長野県知事 古田 岐阜県知事 石川 静岡県知事 神田 愛知県知事 野呂 三重県知事	(政令市) 小嶋 静岡市長 鈴木 浜松市長 河村 名古屋市長	(経済団体) 川口 中部経済連合会会長 岡田 東海商工会議所連合会会長 加藤 長野県商工会議所連合会会長 松浦 静岡県商工会議所連合会会長	(国の地方支分部局の長)
--	---	---	---	--------------

①-1 世界的に優れた国際物流ネットワークの形成

- ・国際空港と一体となったスーパー中枢港湾プロジェクトの充実・深化
- ・港湾、空港の輸出入手続きサービスの高度化

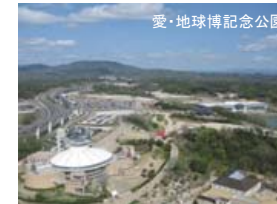


【指標】
中部の外貿コンテナ貨物量の増加率:年平均伸び率 3% 等

【主要事業】
・伊勢湾スーパー中枢港湾プロジェクトの推進
【名古屋港(愛知県)、四日市港(三重県)】 等

②-1 大規模な地震にも強い地域の構築

- ・河川管理施設、海岸保全施設、道路、港湾・空港施設等の耐震化
- ・避難路・避難地のオープンスペース確保



【指標】
大規模地震が特に懸念される地域における港湾による緊急物資供給可能人口:約144万人(H19)→約165万人(H24) 等

【主要事業】
・田子の浦港多目的ターミナル整備(静岡県) 等
・防災公園の整備:愛・地球博記念公園(愛知県) 等

①-2 国内交通網の強化と高度な物流システムの構築

- ・高速交通ネットワークと都市圏環状道路の整備推進
- ・国内海上輸送網や地方航空路線の充実



【指標】
名古屋都市圏二環状道路整備率:60%(H19)→65%(H24) 等

【主要事業】
・東海環状自動車道(西回り)(関広見～四日市)(岐阜県・三重県) 等
・名古屋環状2号線(名古屋南～高針、名古屋西～飛鳥)(愛知県) 等

②-2 洪水・土砂災害・高潮、雪害等や濁水に強い地域の構築

- ・河川管理施設の整備や、保水・遊水機能保全など流域が一体となった総合的な治水対策



【指標】
洪水の氾濫から守られる区域の割合: 62%(H19)→64%(H24) 等

【主要事業】
・東海ネーデルランド高潮・洪水対策(愛知県・岐阜県・三重県) 等
・宮川床上浸水対策特別緊急事業(三重県) 等

～広域地方計画と重点整備方針との関係及び今後の手続き～

○『広域地方計画』は広域ブロックの将来像や地域戦略等を、『地方ブロックの社会資本の重点整備方針(地方重点方針)』はこの実現に向けた社会資本整備の具体的な方針を定めるもの。

○『広域地方計画』と『地方重点方針』は、まさに「車の両輪」となって機能するもの。

	広域地方計画 ～ブロックの国土形成に係る総合的・基本的計画～	地方重点方針 ～地方ブロックの社会資本整備の具体的な方針～
目的	新たな国土形成計画が目指す「多様な広域ブロックが自立的に発展する国土の構築」の具体化を図るため、広域ブロックにおける 国土の利用、整備及び保全を推進するための総合的かつ基本的な計画 として定めるもの。	各地方の特性に応じて社会資本を重点的、効率的かつ効果的に整備し、適切に維持管理・更新していくため、広域地方計画に示す地方ブロックの方向性や地域戦略の実現に向け、地方ブロックの 社会資本整備の具体的な方針 を示すもの。
計画の対象	国土の利用、整備及び保全に関する 府省にまたがる 施策全般	道路、空港、港湾、下水道、河川等の 社会資本整備事業
計画期間	21世紀前半を展望しつつ、今後 概ね10年間	H20～24年度の5年間
対象地域	全国8ブロック	広域地方計画の8ブロックに北海道と沖縄を加えた 全国10ブロック
根拠法	国土形成計画法	社会資本整備重点計画(閣議決定)
計画に盛り込む内容(案)	○国土の形成に関する方針 ○国土の形成に関する目標 ○広域の見地から必要と認められる主要な施策 ◇方針・目標の実現に必要なプロジェクト ※「産業の国際競争力強化プロジェクト」、「中山間地域等の活性化プロジェクト」など、地域の実情に即した政策課題についてのソフト・ハード一体となった施策パッケージ	○現状と課題 ○目指すべき将来の姿 ○社会資本の重点事項 ◇地方重点目標 ◇(重点目標の達成度を評価し、わかりやすく示すための)指標 ◇(目標達成のための具体的な取組として地方を代表又は地域を支える)主要事業・施策 【指標の例】 ・汚水処理人口普及率 ○○%(H19)→○○%(H24) ・床上浸水の恐れがある戸数 ○万戸(H19)→○万戸(H24) ・特定道路のバリアフリー化率 ○○%(H19)→○○%(H24)

○車の両輪である『地方ブロックの社会資本の重点整備方針(地方重点方針)』と『広域地方計画』については、平成21年夏頃の計画決定に向け、**双方の手続きの連携・一体化を十分にはかりつつ実施**。

	広域地方計画 ブロックの国土形成に係る 総合的・基本的計画	地方重点方針 地方ブロックの 社会資本整備の 具体的な方針	新まんなかビジョン 社会資本における 10～20年後を見据えた 中部地方独自ビジョン
4月1日 ～28日	市町村提案募集 (約4週間)	市町村提案募集 (約4週間)	新まんなかビジョン 素案の検討
現時点 6月11日	第2回 広域地方計画協議会	提案内容の活用	
6月中旬～	パブリックコメント (約4週間)	パブリックコメント (約4週間)	パブリックコメント (約4週間)
夏頃	都道府県等との調整・確認 国土交通本省への提出 各省協議	都道府県等との調整・確認 国土交通本省への提出	都道府県等との調整・確認
	大臣決定	地方重点方針の策定 (大臣決定)	部長クラス会議(国土交通広域連携中部会議フォローアップ会議)で 新まんなかビジョンの策定

中部ブロックの社会資本の重点整備方針に関する市町村意見及び対応(案)

市町村からの意見数合計:(延べ)188件

地方重点戦略1 ものづくりをはじめ国際的に強い産業競争力ある地域づくり		
規格の高い道路ネットワークの整備を求める意見。(競争力)	16	地方重点戦略1重点目標②に「高速交通ネットワークと都市圏環状道路の整備推進による連携・連結強化」と記述しているところです。
新幹線鉄道の整備を求める意見。	3	地方重点戦略1重点目標②において「鉄道輸送のサービス向上や代替性のある高速鉄道網の形成」と記述しているところです。
港湾の機能強化を求める意見。	2	地方重点戦略1重点目標①に「港湾・空港の機能強化」と記述しているところです。
物流基盤整備を求める意見。	1	地方重点戦略1重点目標②に「高度物流拠点や、共同集配拠点等を整備」等記述しているところです。
有料道路の無料化を求める意見。	2	地方重点戦略1重点目標②に「弾力的料金施策」として記述しているところです。
地方重点戦略2 災害に強い安全で安心な地域づくり		
緊急輸送道路の整備を求める意見。	11	地方重点戦略2重点目標③に「緊急輸送道路の強化」等記述しているところです。
防災情報基盤の整備を求める意見。	3	地方重点戦略2重点目標③に「防災情報の共有化・高度化と災害情報の提供」と記述しているところです。
治水対策を求める意見。	2	地方重点戦略2重点目標①に「河川管理施設の整備や保水・遊水機能保全など流域が一体となった総合的な治水対策」等記述しているところです。
港湾施設の耐震化を求める意見。	1	地方重点戦略2重点目標②に「住宅・建築物、下水道施設、河川管理施設、海岸保全施設、道路、港湾・空港施設、官庁施設等の耐震化」と記述しているところです。
避難場所確保を求める意見。	1	地方重点戦略2重点目標③に「避難路・避難地の確保」と記述しているところです。
災害対策全般の取り組みを求める意見。	2	地方重点戦略2全体で記述しているところです。
土砂災害対策を求める意見。	1	地方重点戦略2重点目標①に記述しているところです。
地方重点戦略3 地域資源を活かし自然と共生する環境先進地域の形成		
森林保全を求める意見。	3	地方重点戦略3重点目標①に「森林・水源地の保全」と記述しているところです。
沿道の景観形成を求める意見	2	地方重点戦略3重点目標④に「沿道や水辺の景観形成(日本風景街道、かわまちづくり、みなとオアシスなど)」等記述しているところです。
水辺の景観形成を求める意見。	1	地方重点戦略3重点目標④に「沿道や水辺の景観形成(日本風景街道、かわまちづくり、みなとオアシスなど)」等記述しているところです。
伝統的街並み保存・再生を求める意見。	1	地方重点戦略3重点目標④に記述しているところです。
健康被害防止に関する取組を求める意見。	1	地方重点戦略3重点目標①に生活環境を改善する旨記述しているところです。
外来生物対策を求める意見。	1	地方重点戦略3重点目標②に多様な生態系などを維持・再生する旨記述しているところです。
環境・景観全般の取り組みを求める意見。	2	地方重点戦略3全体で記述しているところです。

地方重点戦略4 魅力あふれる賑わいと活気ある地域づくり		
生活幹線道路の整備を求める意見。	17	地方重点戦略4重点目標①に「生活幹線道路を整備」と記述しているところです。
規格の高い道路ネットワークの整備を求める意見。(交流・連携)	17	地方重点戦略4重点目標①に「国内交通網を強化」と記述しているところです。
観光ルートの整備を求める意見。	10	地方重点戦略4重点目標①に「国内交通網を強化し隣接経済圏との交流を拡大」、「港湾や国際空港等を活用した世界的な交流を拡大」等記述しているところです。
地域資源を活用した整備を求める意見。	5	地方重点戦略4重点目標③に記述しているところです。
港湾・空港を活用した交流拡大を求める意見。	2	地方重点戦略4重点目標①に「港湾や国際空港等を活用した世界的な交流を拡大」と記述しているところです。
地方医療対策を求める意見。	2	地方重点戦略4重点目標②に「医療施設等の拠点へのアクセスを強化」と記述しているところです。
観光情報基盤の整備を求める意見。	2	地方重点戦略4重点目標①に「国内外へ地域情報を発信」等記述しているところです。
農業基盤の整備を求める意見。	2	地方重点戦略4重点目標②に中山間地・農山漁村の地域力を向上する旨記述しているところです。
広域情報基盤の整備を求める意見。	1	地方重点戦略4重点目標①に「国内外へ地域情報を発信」等記述しているところです。
交流拠点基盤の整備を求める意見。	1	地方重点戦略4重点目標③に記述しているところです。
もてなしの心の醸成を求める意見。	1	地方重点戦略4重点目標③に記述しているところです。
踏切道立体化を求める意見。	1	地方重点戦略4重点目標①において「生活幹線道路を整備」として記述しているところです。
地域間格差是正を求める意見。	1	地方重点戦略4に「地域間格差を是正」する旨記述しているところです。
地方重点戦略5 誰もが活き活きと快適に暮らせ愛着が持てる地域づくり		
交通安全施設の整備を求める意見。	5	地方重点戦略5重点目標①に「交通事故対策や歩行者優先の道づくり」として記述しているところです。
バリアフリーなまちづくりを求める意見。	3	地方重点戦略5重点目標①に「誰もが快適に移動できる公共交通輸送環境の向上」、「ユニバーサルデザイン導入」等記述しているところです。
住民参加促進を求める意見。	3	地方重点戦略5重点目標③に「住民参加型まちづくりの促進」等記述しているところです。
少子高齢社会対策を求める意見。	1	地方重点戦略5全体で記述しているところです。
地方の公共交通確保を求める意見。	1	地方重点戦略5重点目標①に「誰もが快適に移動できる公共交通輸送環境の向上」、「高齢者が安価に利用できる新たな輸送サービス導入」等記述しているところです。
地方の情報基盤の整備を求める意見。	1	地方重点戦略5重点目標①に「暮らし等に必要の情報や産業活動を高度化・迅速化する情報通信環境を整備」と記述しているところです。
身近な公園の整備を求める意見。	1	地方重点戦略5重点目標①において「歩いていける身近な公園の整備」と記述しているところです。
その他		
社会資本の計画的整備を求める意見。	4	今後概ね10年間における中部圏の国土づくりの方針を示した国土形成計画の中部圏広域地方計画と、その地域戦略を社会資本においてより具体的に示した重点整備方針を策定することにより、社会資本を重点的、効果的かつ効率的に整備します。
個別事業名の記述を求める意見。	51	個別事業名については、全ての事業を記述することは困難であると考えており、中部ブロックの社会資本ビジョンとして記載すべき事業や、地域の活力となるソフト事業(時期が明確な開催イベントなど)に関するインフラ事業を選定して記述したいと考えております。

新まんなかビジョン(素案) アピールポイント概要(9つの地域の融合)

VI. 新まんなかビジョンが創り出す将来イメージ

中部地方は、集中豪雨や台風などによる自然災害や、巨大地震災害等の発生が懸念され、日本の大動脈を担う中部地方であるが故に、沿岸部での高潮・津波災害を含めた大規模災害による日本経済の停滞が懸念されます。さらに活発な経済活動による負の遺産ともいえる様々な環境問題や、水不足やエネルギー危機、中山間・半島地域と都市部、中心市街地など各地域の活力衰退と地域間格差の拡大、さらには社会の成熟化に伴うライフスタイルニーズの多様化への対応など、様々な課題があります。

そうした中、中部地方は、日本のロータリーとしての新たな価値を生み出す個性と魅力ある圏域を形成するため、中部圏広域地方計画で「日本のまんなかから世界のまんなかへ」と飛翔する将来像の実現を目指しています。こうした中部圏の国土づくりの指針を踏まえ、社会資本分野においては、中部地方の地勢的・社会経済的な「まんなか」を活かし、現状と課題を十分に認識した上で、アジアをはじめとする世界の国々や国内の都市・地域と相互に交流・連携し、活力ある強い産業競争力の持続的な発展を遂げ、我が国の経済を牽引していくことが重要です。また、安全・安心な地域として、環境先進地域として、国内外を先導し世界水準の信頼を確立していくことも重要です。さらに価値観の多様化に対応した成熟社会にふさわしい暮らしを実践できる地域となることが求められています。

こうした中、社会資本分野においては、今後10～20年後を見据え、「まんなかで日本をリードする中部」の形成を目指します。

この将来の姿を実現するには、

- ①交流が活発な中部【交流連携】
- ②活力ある中部【強い産業競争力】、
- ③自然と共生する中部【環境景観】
- ④愛着が持てる中部【暮らし】
- ⑤災害に強い中部【安全安心】

の5つの目指すべき地域づくりの方向が融合することで、中部らしさを活かした世界に誇れる地域の創造を目指します。

中部地方の将来像を実現へ

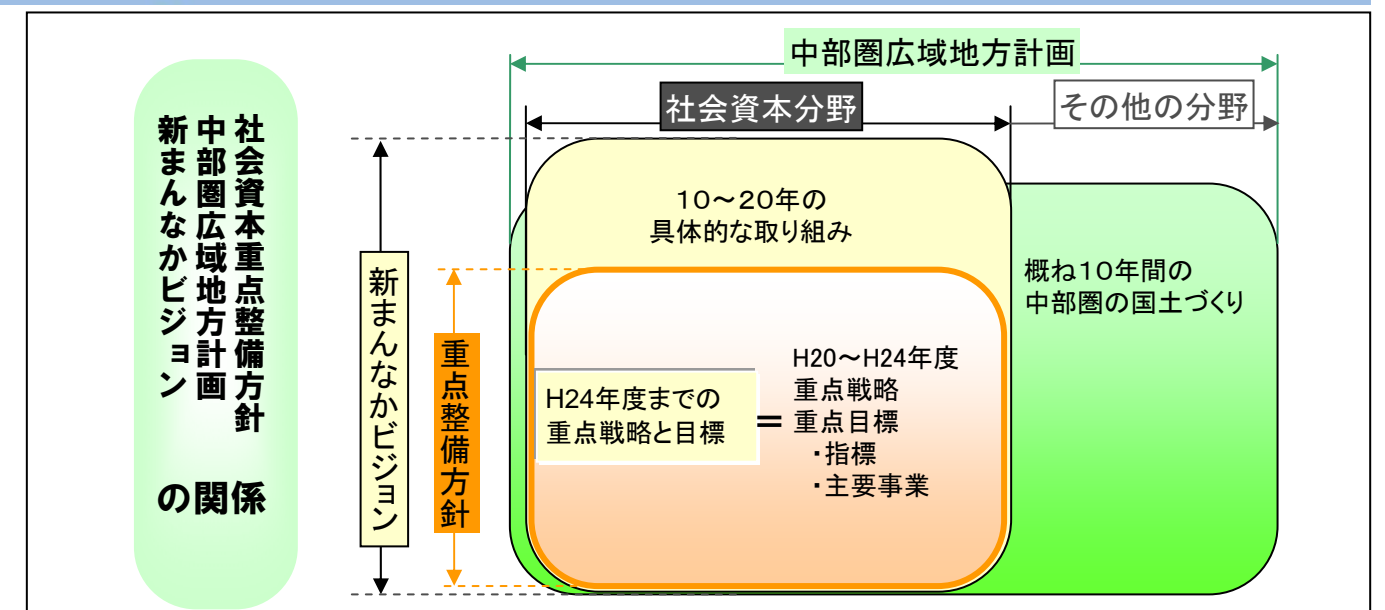
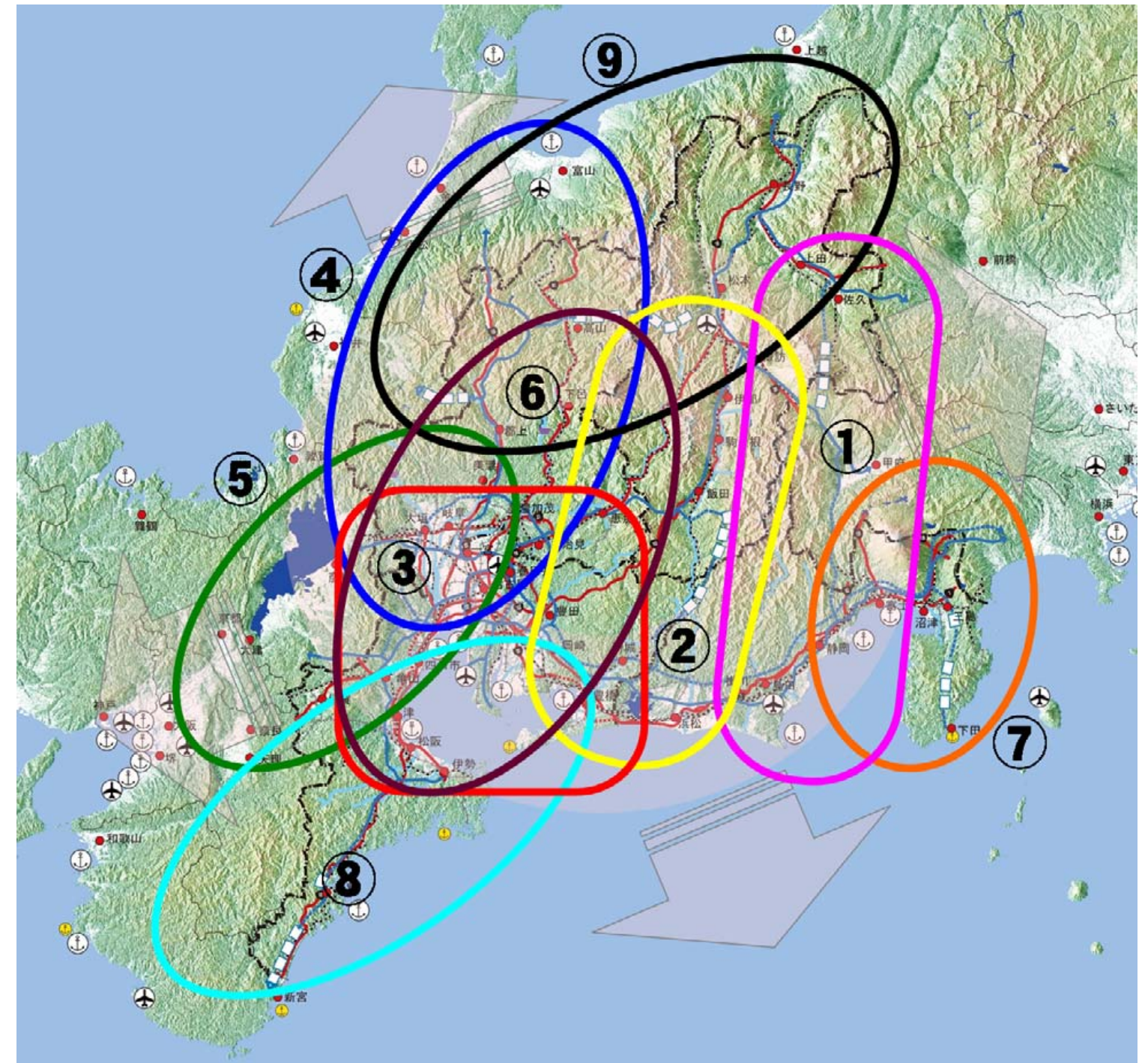
中部地方の将来像の実現には、日本の「まんなか」である優位性を活かし、かつ、最先端な技術と人知、産業の集積地である中部地方の特性を最大限に発揮していくことが重要です。

そのためには、我が国の東西方向、南北方向の連携、また、BRICs及び東アジア諸国や欧米諸国との連携、さらには、首都圏や近畿圏、北陸圏と中部圏を結ぶ様々な地域の役割と発展を重視し、県境を越え、山から海までを繋ぐ河川流域や古(いにしえ)から街道で繋がる9つの地域の連携による「融合」で、中部地方の将来像の実現に向けた持続的な発展を目指していきます。

中部地方の各地域(案)

- ① 駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域
- ② 南信から三遠を結ぶ地域
- ③ 名古屋都市圏一帯を取り巻く地域
- ④ 東海と北陸を結ぶ地域
- ⑤ 東海と近畿を結ぶ地域
- ⑥ 伊勢湾・三河湾流域
- ⑦ 富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域
- ⑧ 伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域
- ⑨ 長野と飛騨、北陸沿岸を結ぶ地域

以下に、中部地方の各地域における、中部地方の「新まんなかビジョンが創り出す将来イメージ」を紹介します。



①駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・長野県境に源を発し、山梨県を上流域に持つ富士川の他、興津川、安倍川、大井川などの流域。
- ・古くは、静岡県中部(駿河)から甲州へ塩などの物資を運ぶ富士川街道で結ばれた地域で、また、佐久甲州街道で信州佐久を結ぶ地域一帯。日本を横断する地域。

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

日本の経済活動を支える大動脈が通り静岡県中部から甲州地方を経て長野県東部を結ぶ地域は、30年以内に87%の確率で発生が危惧される東海地震の震源域に近接しているばかりか、南アルプスの山々から一気に流れる河川の氾濫、海岸浸食による高潮被害の発生等の自然災害が懸念される地域です。

そうした中、脆弱な地質である由比地区には交通網が集中しており、地すべり対策等で災害による交通の寸断を防止するほか、高速道路や鉄道など交通網の耐震化や代替補完機能の確保が急務となっています。また、治水対策などによる災害を克服する対策をはじめ、災害時でも経済活動を停滞させない港湾・空港機能の強化、迅速な避難計画や業務継続計画などのハード・ソフトによる総合的な防災対策が急務です。

当地域ではこうした安全安心基盤を整えつつ、2009年6月に新たな空のゲートウェイとして開港する富士山静岡空港を最大限活かし、名古屋都市圏や首都圏、東アジア等との交流の拡大・活性化が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

高速道路や幹線道路の代替補完機能の確保と港湾・空港機能の強化、津波や高潮災害、豪雨等による浸水対策の強化により、より一層、災害に強い安全・安心基盤を整えた地域を目指します。

また、交通網の被災による日本経済の停滞を抑制するとともに産業・経済の発展を支え、かつ、駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ南北連携軸を強化する交通ネットワークの形成により、全方向的に交流・連携が活発な地域を目指します。

さらに富士山静岡空港開港を契機に、東アジアをはじめ国内外との交流を一層活発化させ、当地域の様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域を目指します。

こうした駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域の目指すべき将来イメージを実現することで、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、富士山静岡空港や清水港などの国際ゲートウェイや東西大動脈である東名高速道路や中央自動車道などと、当地域内の拠点都市や周辺地域を結ぶ中部横断自動車道(長坂～八千穂)等の高速交通ネットワーク計画等について、中部地方の将来展望と、他圏域も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。また、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や土砂災害対策、津波・高潮対策等について、さらなる検討を重ねていきます。

さらに、国際ゲートウェイである富士山静岡空港や清水港・御前崎港の将来的な需要動向を踏まえ、国際的な人流・物流拠点の機能強化に資するサービスの高度化や効率化について検討を重ねていきます。

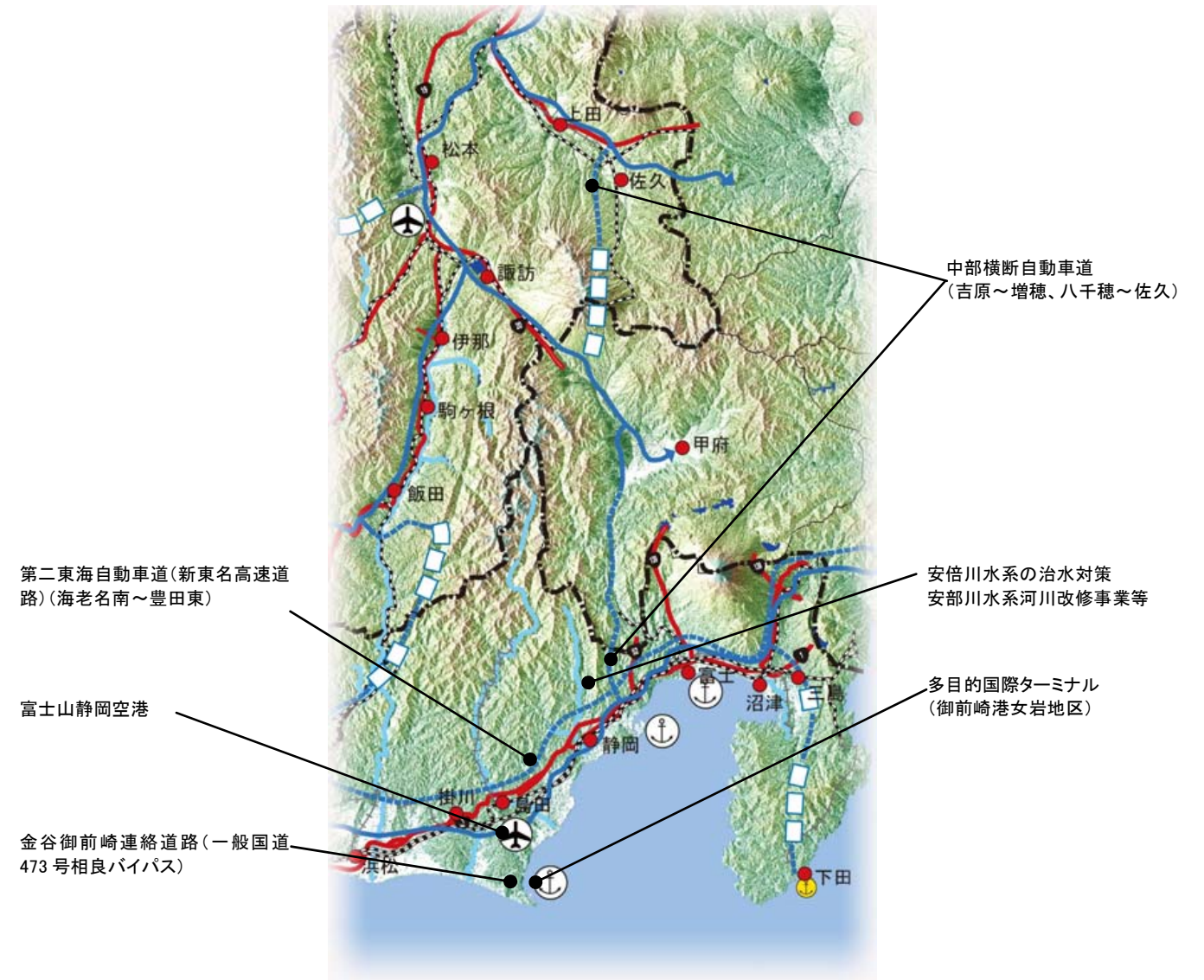
【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、津波・高潮や土砂災害に対する安全度や外貨貨物の増加量や観光客の増加率など国内外の物流・人流の変化といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

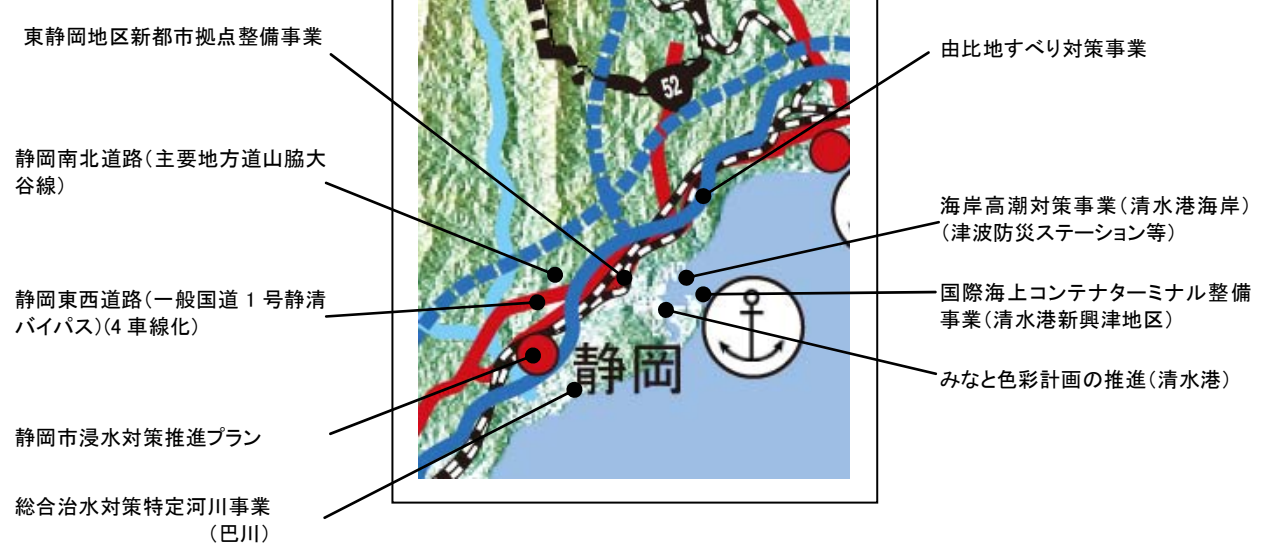
【主なプロジェクト】

①駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域

当該地域俯瞰図



静岡市周辺地図



②南信から三遠を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・諏訪湖から遠州灘に注ぐ天竜川の他、豊川の流域一帯。
- ・古くは、静岡県西部(遠州)や愛知県三河から信州(塩尻)への「塩の道」(伊那街道・秋葉街道)で結ばれた地域。

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

天竜川の舟運や「塩の道」による交流が盛んであった南信から三遠を結ぶ長野県南部、静岡県西部、愛知県東部の地域の内、沿岸部は東西の大動脈が通り自動車産業をはじめとする産業が集積する活発な経済活動が営まれている地域です。

一方、天竜川上流や中山間地では中央構造線がはしる脆弱な地形に加え、過疎化の進行などで水源地である森林が荒廃し、土砂堆積によるダム機能の低下とともに、河川の正常な流砂機能が確保されないことによる海岸の浸食が深刻化している地域です。

そうした中、水源地から河口・海岸までの土砂移動の連続性を確保する天竜川水系の総合的な土砂管理の取組と遠州灘海岸の浸食対策が急務となっています。

さらに中山間地と都市部の交流を活発化するため通行不能区間を解消し、上流から下流までの流域圏が一体となる交通ネットワークの形成が重要です。また、三河港や御前崎港などの港湾や富士山静岡空港を結ぶことにより、南信から三遠を結ぶ当地域と名古屋都市圏をはじめとする国内外との連携強化が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

健全な水循環系の構築と総合的な土砂管理の取り組み、多様な生態系等の保全や日本古来の海浜を再生することで、環境にやさしく災害に強い地域を目指します。

また、東名高速道路などの太平洋沿岸の交流軸と中央自動車道などの内陸部の交流軸を結ぶ代替補完機能を兼ね備えた交通ネットワークを形成し、かつては「塩の道」による往来が盛んであった地域の人やモノの活発な交流を目指します。

南信から三遠を結ぶ地域の都市部と中山間地域とが相互に補完・連携し合うとともに、環伊勢湾地域の各拠点都市の連携強化により地域の魅力と成長力を高めるモデル圏域を目指します。

こうした南信から三遠を結ぶ地域の将来イメージを実現することで、ひいては活力あふれ環境先進性に優れ、持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、健全な水・物質等の自然資源の循環を図るため、天竜川流域と海岸を含めた上下流一環の総合土砂管理等や海岸浸食対策についてさらなる検討を重ねていきます。

また、東西大動脈である東名高速道路や中央自動車道などと、当地域内の拠点都市や周辺地域を結ぶ三遠南信自動車道等をはじめ、富士山静岡空港や三河港などの国際ゲートウェイを結ぶ高速交通ネットワーク計画等について、中部地方はもとより広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

また、国内最大の自動車産業が集積する地域に位置する三河港について、将来的な需要動向を踏まえ物流拠点の機能強化について検討を重ねていきます。

さらに、我が国を縦横断する交流軸が交わるロータリーの一翼を担う地域として、環伊勢湾地域においては、自立性の高い都市圏が重層的に連なるより魅力的な広域交流圏を目指し、多様なネットワークの形成による湾岸地域相互、湾岸地域と周辺地域の交流・連携機能の強化を図ります。

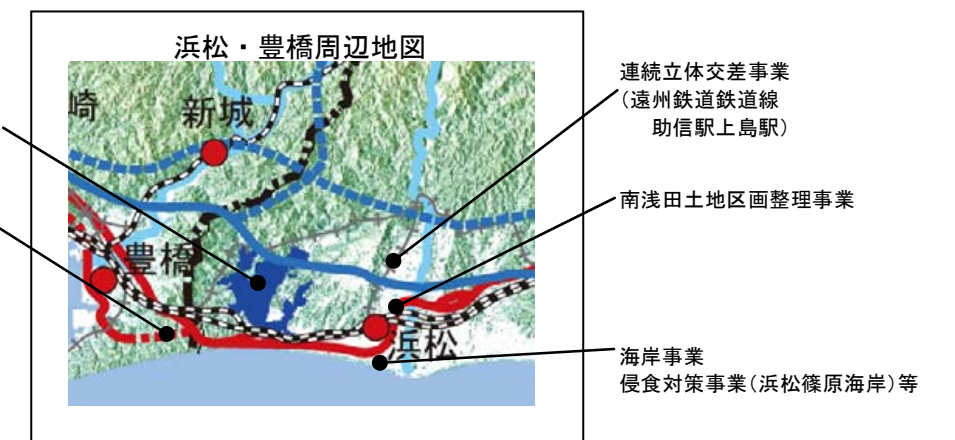
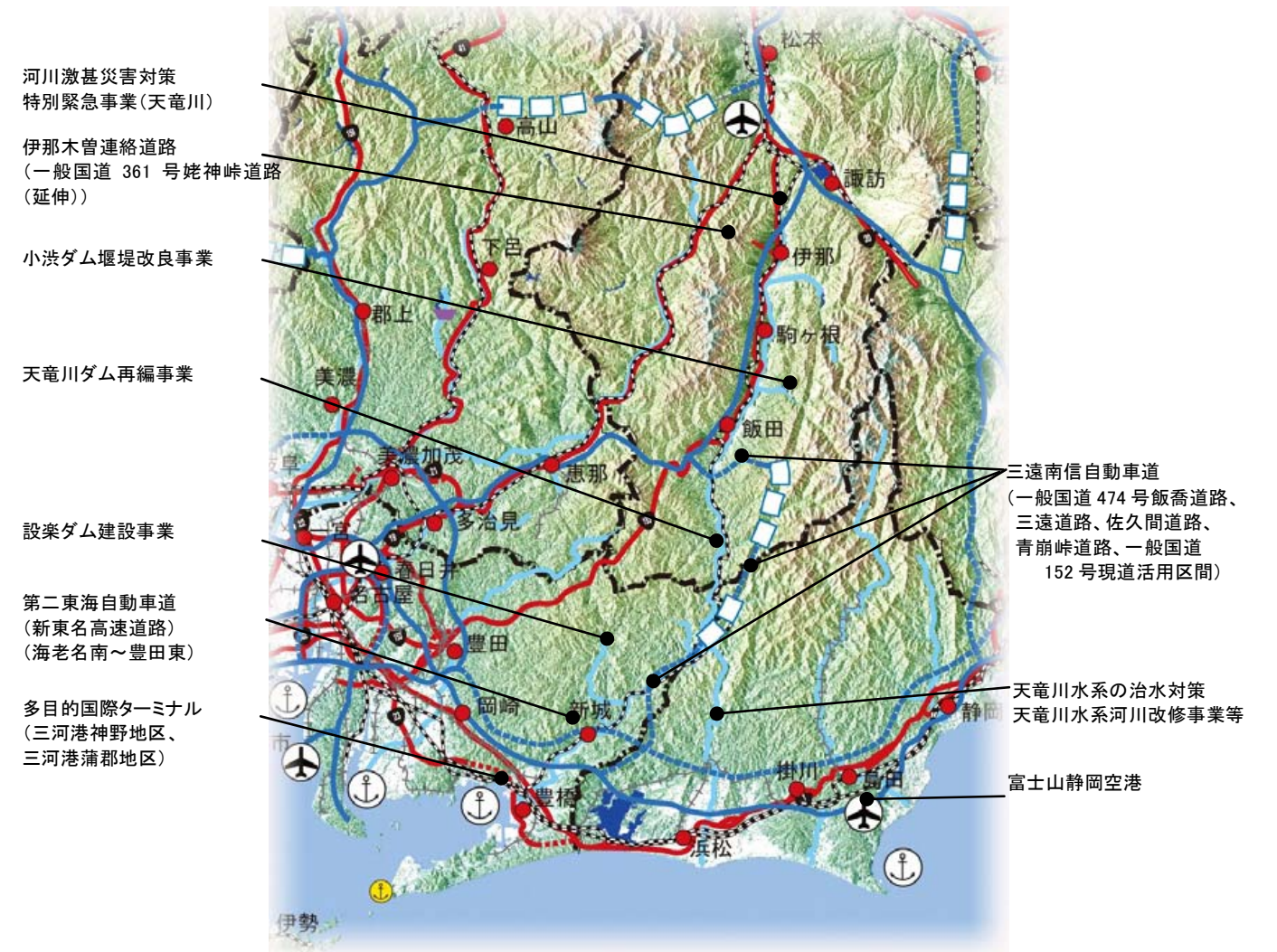
【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

南信から三遠を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、森林の保全や水辺の再生の割合、上下流の交流人口や土砂の流れが改善された地域といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

【主なプロジェクト】

②南信から三遠を結ぶ地域

当該地域俯瞰図



③名古屋都市圏一帯を取り巻く地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

・名古屋を中心とする東海三県にわたる経済圏域（愛知、岐阜南部、三重北中部）

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

日本の東西大動脈と、太平洋岸と日本海岸を結ぶ南北軸が交わる愛知・岐阜・三重の名古屋都市圏一帯を取り巻く当地域は、ものづくり産業が集積し、取扱貨物量及び貿易額で日本一(平成20年)である名古屋港をはじめとする国際港湾や中部国際空港を有する地域です。

しかし、我が国最大のゼロメートル地帯であるとともに東海地震、東南海地震の発生が危惧され、大規模な自然災害による生命や財産の危機、人流・物流の寸断、経済活動の停滞が懸念される地域です。

このため津波・高潮・洪水対策や河川堤防・護岸等の耐震強化などの災害を克服するための対策、および平成6年のような異常渇水時における水の安定確保が急務です。

さらに大規模災害に備え、交通網の強化や代替補完機能の確保、災害発生後の迅速な救援・復旧活動を可能にする体制強化や復旧の長期化防止への対応が急務です。

また、急速に進む橋梁等の社会資本ストックの老朽化に対応するため、適切な維持管理も重要な課題です。日本のものづくりの中心である名古屋都市圏一帯を取り巻く地域の安全安心基盤を整えるとともに国際的な産業競争力の強化と東アジアをはじめとする世界各国との連携強化や信頼確保が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

都市圏環状道路整備などによる交通網の代替補完機能の確保と津波や高潮災害、豪雨等による浸水対策を強化するとともに、生活と産業に欠かすことのできない水を安定的に確保することで、災害に強い安全・安心基盤を整えた地域を目指します。

また、国際港湾・空港機能の強化と交通網の連携・連結強化により当地域の交流圏域を拡大し、企業進出や宅地開発、新たな産業が創出されるなど一層国際的に強いものづくり産業が発展した地域を目指すとともに、名古屋都市圏一帯を取り巻く地域の様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域を目指します。

こうした当地域の目指すべき将来イメージを実現することで、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、海の国際ゲートウェイである名古屋港・四日市港においては、長期的視野に立った需要動向を踏まえ、日本のロータリーに位置する国際拠点港湾として、より一層の効率化・高規格化の検討を重ね、伊勢湾スーパー中枢港湾の充実・深化による国際競争力の強化を目指します。

同様に、空の国際ゲートウェイを担う空港機能の充実・強化を図るため、中部国際空港においては、需要動向を踏まえ、戦略的構想に基づき国と地域が連携して必要な整備を図りつつ完全24時間化の実現を目指します。

そうした中、これら港湾・空港の需要拡大に対応し、港湾・空港と名古屋圏を結ぶ西知多道路や名浜道路をはじめ環伊勢湾地域の各拠点都市との代替補完機能を兼ね備えた高速交通アクセス計画等や当地域内の拠点都市と周辺地域を結ぶ名岐道路、衣浦豊田道路等の広域交通機能の強化に資する高速交通ネットワーク計画等について、中部地方の将来展望と、圏外も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

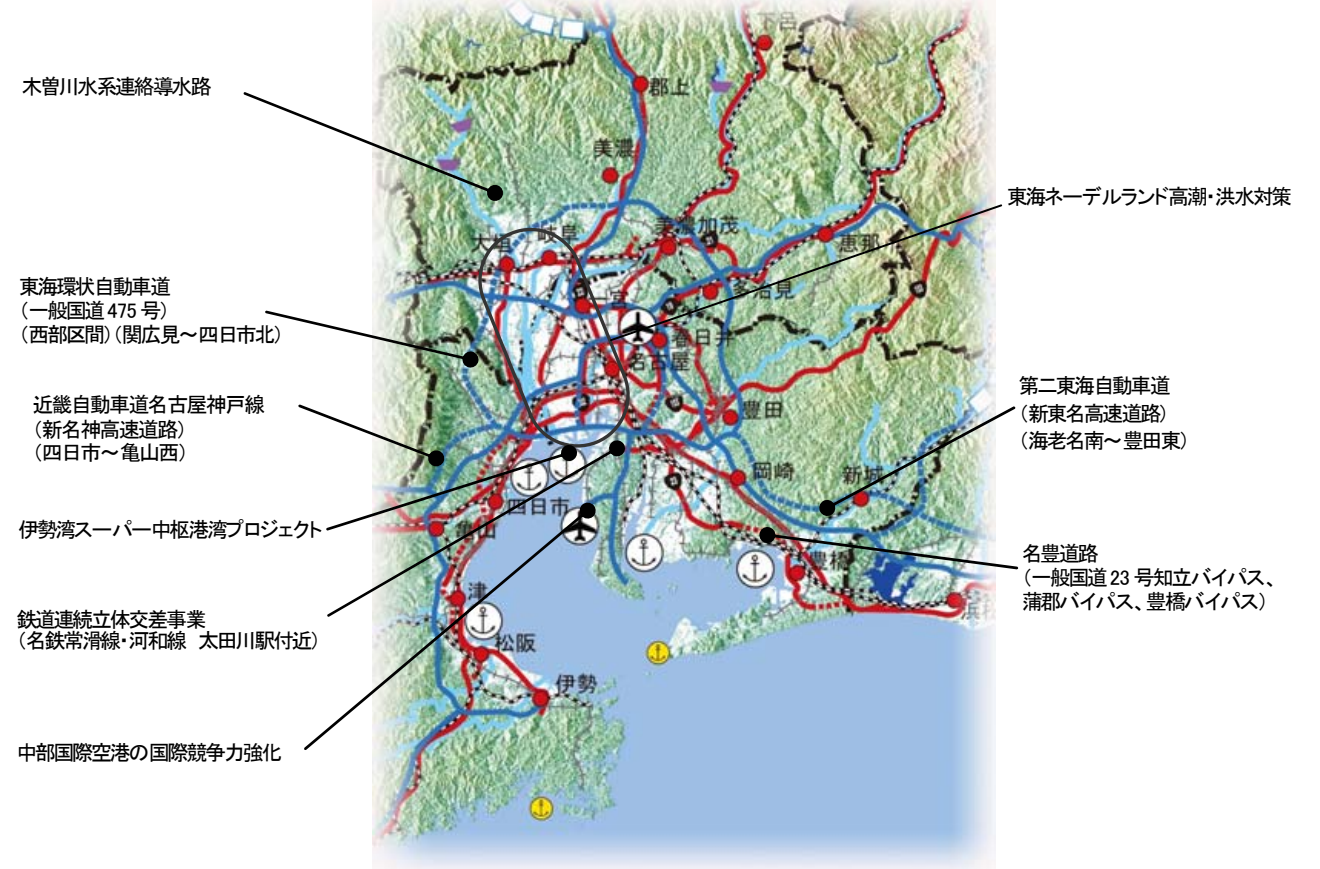
また、我が国最大のゼロメートル地帯であり洪水・津波・高潮などの自然災害から、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や津波・高潮対策等についてもさらなる検討を重ねていきます。

さらに、我が国を縦横断する交流軸が交わるロータリーの一翼を担う地域として、環伊勢湾地域においては、自立性の高い都市圏が重層的に連なるより魅力的な広域交流圏を目指し、多様なネットワークの形成による湾岸地域相互、湾岸地域と周辺地域の交流・連携機能の強化を図ります。

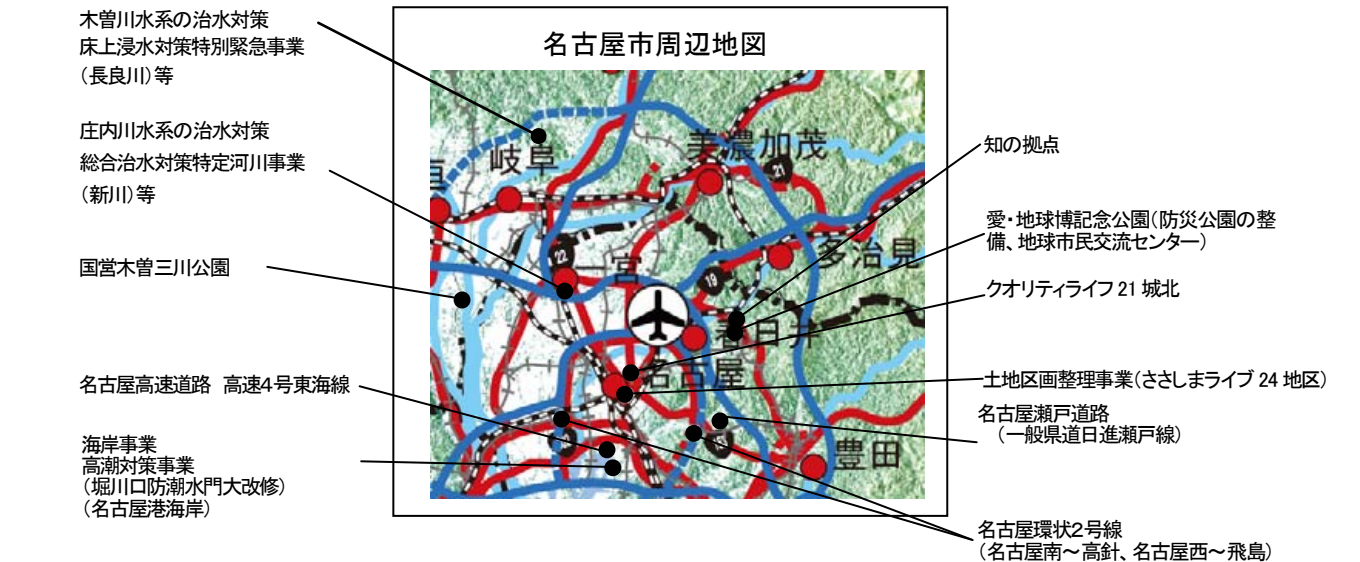
【主なプロジェクト】

③名古屋都市圏一帯を取り巻く地域

当該地域俯瞰図



名古屋市周辺地図



【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

名古屋都市圏一帯を取り巻く地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、規格の高い道路の利用割合や都市圏二環状道路の整備率、洪水の氾濫に対する安全度、外貨貨物や観光客の増加率など国内外の物流・人流の変化といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

④東海と北陸を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・岐阜県高山市に源を発し、太平洋に注ぐ河川(飛騨川～木曾川、長良川)と日本海に注ぐ河川(神通川、庄川)の流域一帯。
- ・2008年7月に太平洋沿岸と日本海沿岸とを直結する東海北陸自動車道が全通し、新たな交流が育まれる地域。

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

自動車等のものづくり産業の集積地と、豊かな自然景観や歴史文化遺産を併せ持つ岐阜県や愛知県西部は、2008年7月の東海北陸自動車道全通により北陸地域と直結され、環日本海経済圏との連携強化による人・モノ・情報の新たな交流と産業等の創出が可能となった地域です。

一方、急峻な山岳地帯を有する当地域は、水源地である森林が荒廃し、洪水や土砂災害と、降雪等による交通障害が発生するなど様々な自然災害が危惧される地域です。

そうした中、東アジアの経済発展を見据えた国際的な産業競争力の向上と観光交流の拡大には、東海と北陸を結ぶ南北交流軸を強化し、中部国際空港や伊勢湾スーパー中枢港湾へも繋がる環状道路などのアクセス強化が重要です。

また、交通の代替補完機能の確保とともに、発生が危惧される洪水や土砂災害、雪害等の対策も急務です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

当地域と北陸圏をはじめとする環日本海経済圏や港湾・空港を結ぶ多様なネットワークの形成により交流圏域を拡大することで、産業立地等の一層の促進とともに、交流が活発で活力あふれる地域を目指します。

また、地域内の安全安心の基盤を整えることと相まって、揖斐川上流域等の水源地を保全し、上下流の交流の場を創出します。

また、白川郷などの歴史文化遺産と豊かな自然景観を活かした多様な観光ルートを提供することで地場産業や観光産業の活性化を目指します。

こうした東海と北陸を結ぶ当地域の目指すべき将来イメージを実現することで、様々な地域の魅力が向上し、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、中部国際空港や名古屋港・四日市港などの需要拡大に対応し、港湾・空港と当地域の各拠点都市とを結ぶ一宮西港道路等をはじめとする代替補完機能を兼ね備えた高速交通アクセス計画等とともに、当地域内の拠点都市と周辺地域や長野・福井・石川・富山を結ぶ中部縦貫自動車道(丹生川～平湯、中ノ湯～波田)や富山高山連絡道路等の広域交通機能の強化に資する高速交通ネットワーク計画等について、中部地方の将来展望と、圏外も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

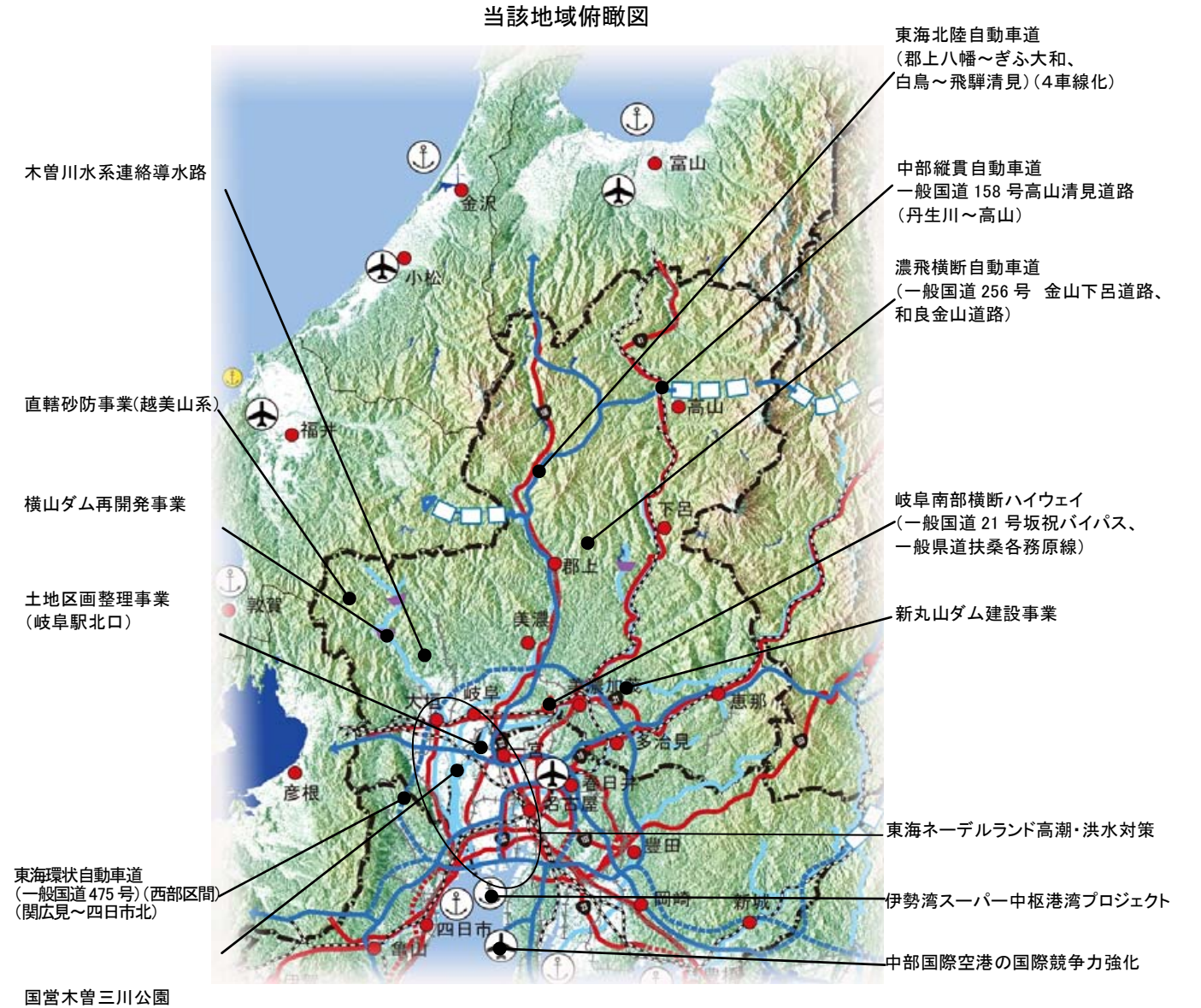
また、洪水・土砂災害・火山災害などの自然災害から、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や土砂災害対策等についてもさらなる検討を重ねていきます。

【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

東海と北陸を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、洪水の氾濫や土砂災害に対する安全度、景観保全された地域や、観光客や交流人口の増加といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

【主なプロジェクト】

④東海と北陸を結ぶ地域



飛騨地区周辺地図

街なみ環境整備事業(古川地区)

高山下呂道路(一般国道41号石浦バイパス)



⑤東海と近畿を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・古くは、近畿(朝廷のあった畿内)と東海地方(伊勢や尾張、美濃など)が七道駅路で結ばれ、その後、鎌倉街道、徳川家康の五街道(東海道)へと変遷するも東西の大動脈で結ばれた地域。
- ・2008年2月には、新名神高速道路が一部開通し、新たな交流が育まれる地域。

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

IT産業や自動車産業が多く集積する三重県北中部や岐阜県西部は、滋賀県方面から四日市港への物流も増加傾向にあり、2008年2月の新名神高速道路開通で、より一層、近畿圏との連携が強化された地域です。

そうした中、新名神高速道路などの東西軸に比べ、南北を結ぶ広域ネットワークが脆弱であることから地域内の主要な幹線道路は慢性的な渋滞が発生しているとともに、沿岸部では高潮等の災害による交通障害も懸念されることから、南北交流軸の強化と代替補完機能の確保が重要です。

また、産業等の活力向上に資する伊勢湾スーパー中枢港湾である四日市港等の機能拡充とともに、港湾や中部国際空港へのアクセス強化が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

広域幹線ネットワーク等の形成による代替補完機能の確保と南北交流軸の強化により交流圏域を拡大することで、産業立地等の促進や新たな産業の創出とともに、名古屋都市圏や近畿圏をはじめ国内外との交流が活発化な地域を目指します。人・モノ・情報の交流・連携により、当地域の様々な観光や文化など魅力あふれる地域を目指します。また、津波・高潮対策等により、災害に強い安全・安心基盤を整えた地域を目指します。

こうした東海と近畿を結ぶ地域の目指すべき将来イメージを実現することで、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、四日市港や名古屋港について長期的視野に立った需要動向を踏まえ、日本のロータリーに位置する国際拠点港湾として、より一層の効率化・高規格化の検討を重ね、伊勢湾スーパー中枢港湾の充実・深化による国際競争力の強化を目指します。

そうした中、港湾・空港と当地域を結ぶ代替補完機能を兼ね備えた高速交通アクセス計画等と、地域内の拠点都市や周辺地域、近畿圏を結ぶ鈴鹿亀山道路や名神名阪連絡道路等の広域交通機能の強化に資する高速交通ネットワーク計画等について、中部地方の将来展望と、圏外も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

また、洪水・津波・高潮や土砂災害などの自然災害から、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や津波・高潮対策等についてもさらなる検討を重ねていきます。

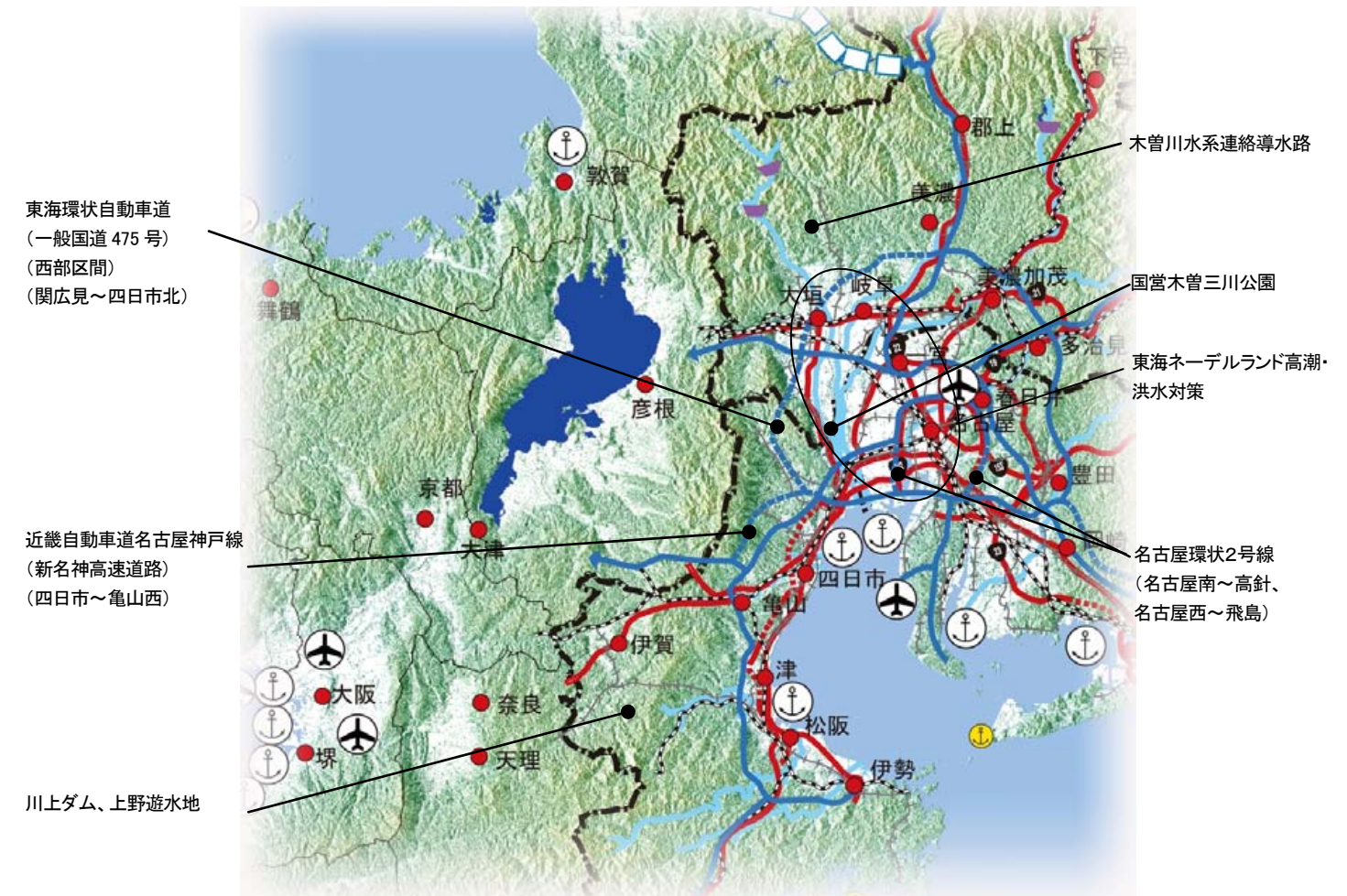
【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

東海と近畿を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、規格の高い道路の利用割合や都市圏二環状道路の整備率と併せ外貨貨物の増加率や、洪水の氾濫や高潮災害に対する安全度といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

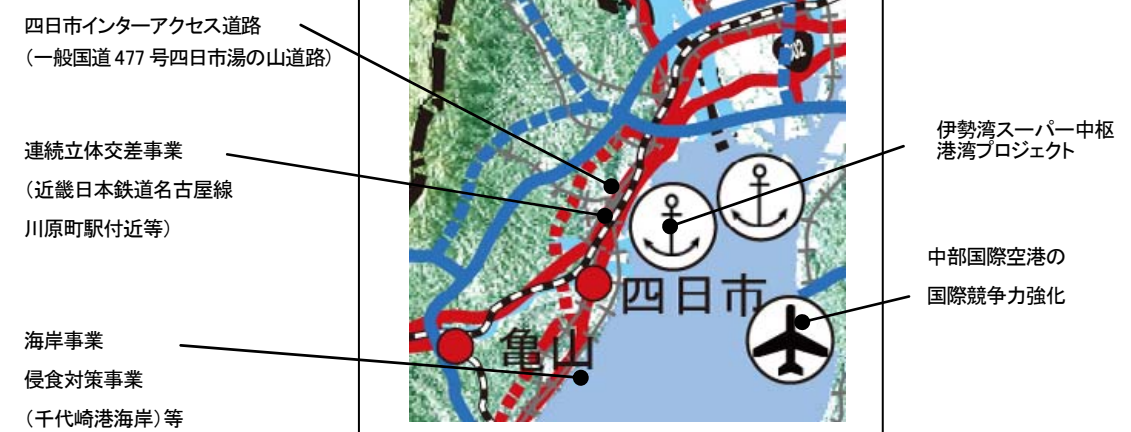
【主なプロジェクト】

⑤東海と近畿を結ぶ地域

当該地域俯瞰図



四日市周辺地域図



⑥伊勢湾・三河湾流域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

・伊勢湾・三河湾に注ぐ流域圏、伊勢湾・三河湾沿岸地域。

【地域の課題への対応ー強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

長野・岐阜・愛知・三重の4県にわたる伊勢湾・三河湾流域は、18,100k m²の広大な流域面積の約6割を山林が占めており、湾域には美しい自然景観と水辺環境を有する地域です。

一方、伊勢湾・三河湾は、流域に暮らす1,100万人の生活排水や工業排水が流れ込むとともに、外海との海水交換が少ない閉鎖性海域です。

湾域では、干潟、浅場、藻場、自然海岸が減少し、赤潮や苦潮が発生するなど、自然環境に大きな課題を抱える地域となっています。

そうしたことから、豊富で多様な生物を生み出し、人々が親しみやすい本来の海の姿を取り戻すとともに、河川や山々が本来持っていた原風景と美しい景観を取り戻すため、人と森・川・海の一帯的な交流・連携による、健全で活力ある伊勢湾・三河湾を再生していくことが重要です。

そこで山間部では、森林の計画的な間伐等による水源地の保全と、中下流域では下水道整備や自然の浄化機能を活かした水質浄化対策とともに、水循環や土砂の連続性の確保、沿岸部の浅場・藻場・干潟の再生等が重要です。

また、だれもが親しめる水辺など憩い安らげる空間の保全・拡充も重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

沿岸域及び流域の人々の適正な水の使用、汚濁負荷の削減や森林、農用地等の保全・整備、海域の底質改善や水質浄化機能の保全・再生・創出等により、流域圏の健全な水・物質循環の構築を目指します。また、生物の生息・生育する干潟、浅場、藻場等の保全・再生・創出等を行い、多様な生態系と漁業生産の回復を目指します。

さらに、交通ネットワークの形成により内陸部と沿岸部との上下流の交流を促進するとともに、自然や歴史・文化資源を活かした人々が水辺で親しみ安全で憩い・安らぎを得られる空間を拡充します。

こうした当地域の目指すべき将来イメージを実現することで、ひいては環境先進性に優れ愛着がある、持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、湾内はもとより伊勢湾流域圏の健全な水・物質循環を構築し多様な生態系等の保全・回復と、干潟・浅場・藻場等の再生や保全、市街地における流域下水道等の汚染負荷削減を図るとともに、さらに憩い・やすらぎ空間の拡充についてさらなる検討を重ねていきます。

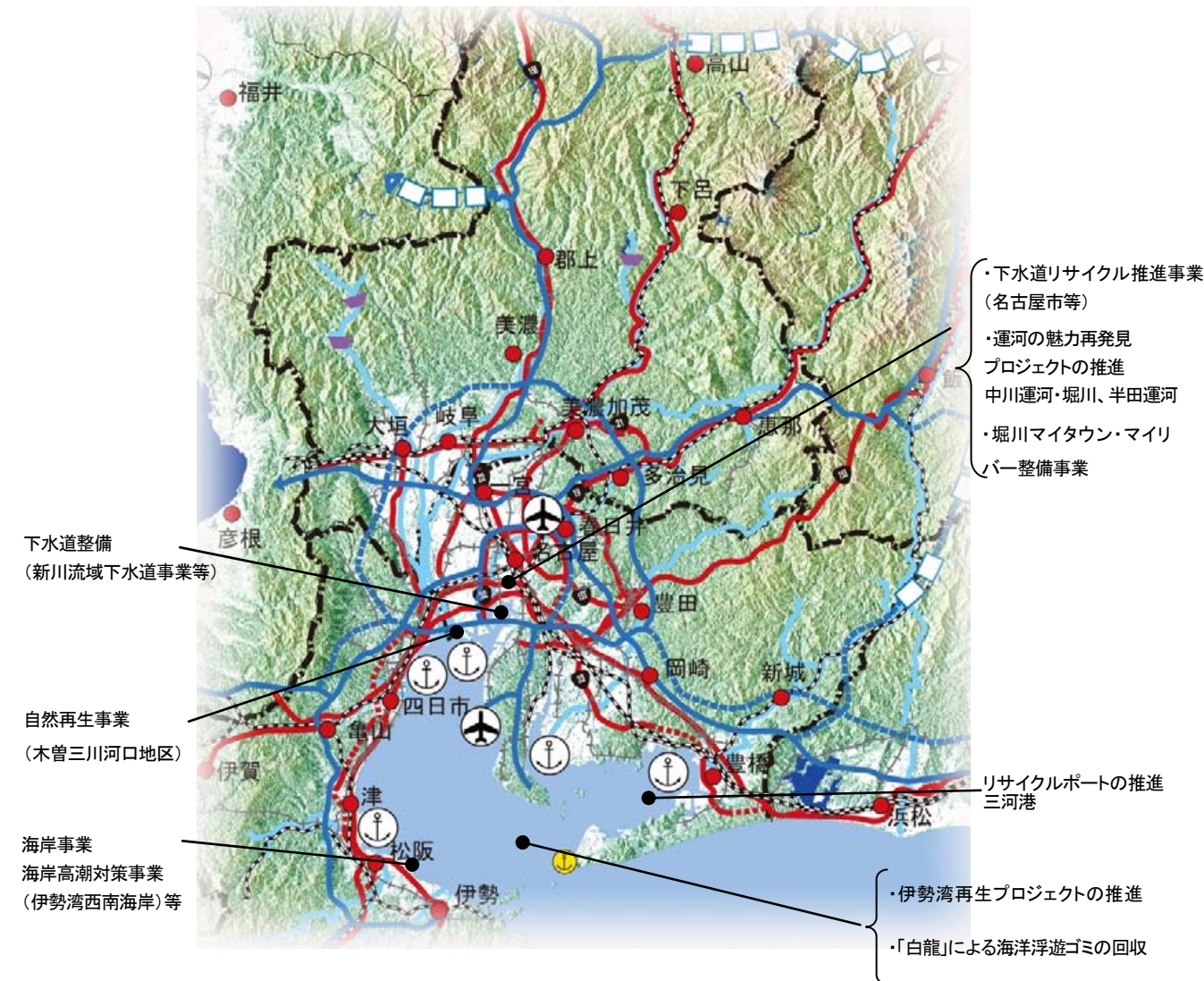
【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

伊勢湾・三河湾流域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、森林の保全や水辺の再生、湾内の魚介類の漁獲量や上下流の交流人口といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

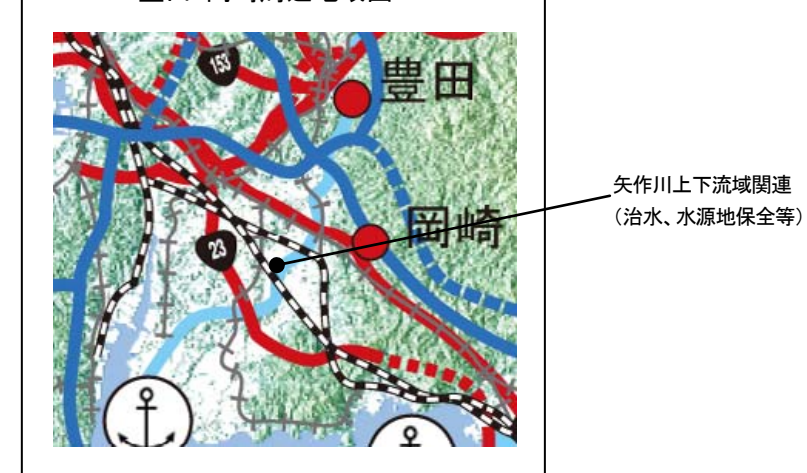
【主なプロジェクト】

⑥伊勢湾・三河湾流域

当該地域俯瞰図



豊田・岡崎周辺地域図



⑦富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・富士山はじめ箱根・伊豆など自然景勝地や温泉資源に恵まれ、古くから保養地や観光地、別荘地として発展してきた地域一帯。
- ・富士箱根伊豆国立公園に指定された地域一帯。

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

世界的に知られる富士山をはじめ自然景観と温泉資源に恵まれ、首都圏に近いことから古くから観光地として発展してきた富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域は、活発な太平洋沿岸の産業・経済活動の一翼を担う地域ともなっています。

そうした中、半島部を縦断する南北交通軸が弱いことから、生活交通と産業・観光交通が輻輳し各所で恒常的な渋滞が発生しており、地域住民の日常生活への影響はもとより観光産業等の衰退を招きかねない状況です。

こうしたことから地域内の交通混雑解消と各観光地へのアクセス改善に資する道路や鉄道などの交通ネットワークの形成が急務となっています。また、発生が危惧される富士山の噴火や土石流、東海地震などによる自然災害への対応が重要です。

2009年6月に開港した富士山静岡空港を最大限活かし、空港から当地域へのアクセス向上はもとより当地域と名古屋都市圏や首都圏、東アジア等との交流の拡大・活性化が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

国際的な観光・交流拠点として、富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域が有する豊かな自然環境や魅力ある観光資源等と活かし、他地域と連携した多様な観光ルートを提供することで、観光産業等のさらなる活発化を目指します。

また、大規模自然災害等への対策強化と、国内外からのアクセシビリティを向上することで、災害に強く交流が活発な地域を形成するとともに、憩い安らげる空間と産業や暮らしが一体となった新たなモデル圏域を目指します。

こうした富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域の目指すべき将来イメージを実現することで、様々な地域の魅力が向上し、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、当地域内の拠点都市と周辺地域や東西大動脈の東名高速道路などを結ぶ広域交通機能の強化に資するとともに、観光地への交通集中による渋滞対策や観光地間を結ぶ伊豆縦貫自動車道(伊豆市～下田市)等の高速交通ネットワーク計画等について、中部地方の将来展望と圏外も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

また、洪水・土砂災害・津波・高潮などの自然災害から、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や津波・高潮対策等についてもさらなる検討を重ねていきます。

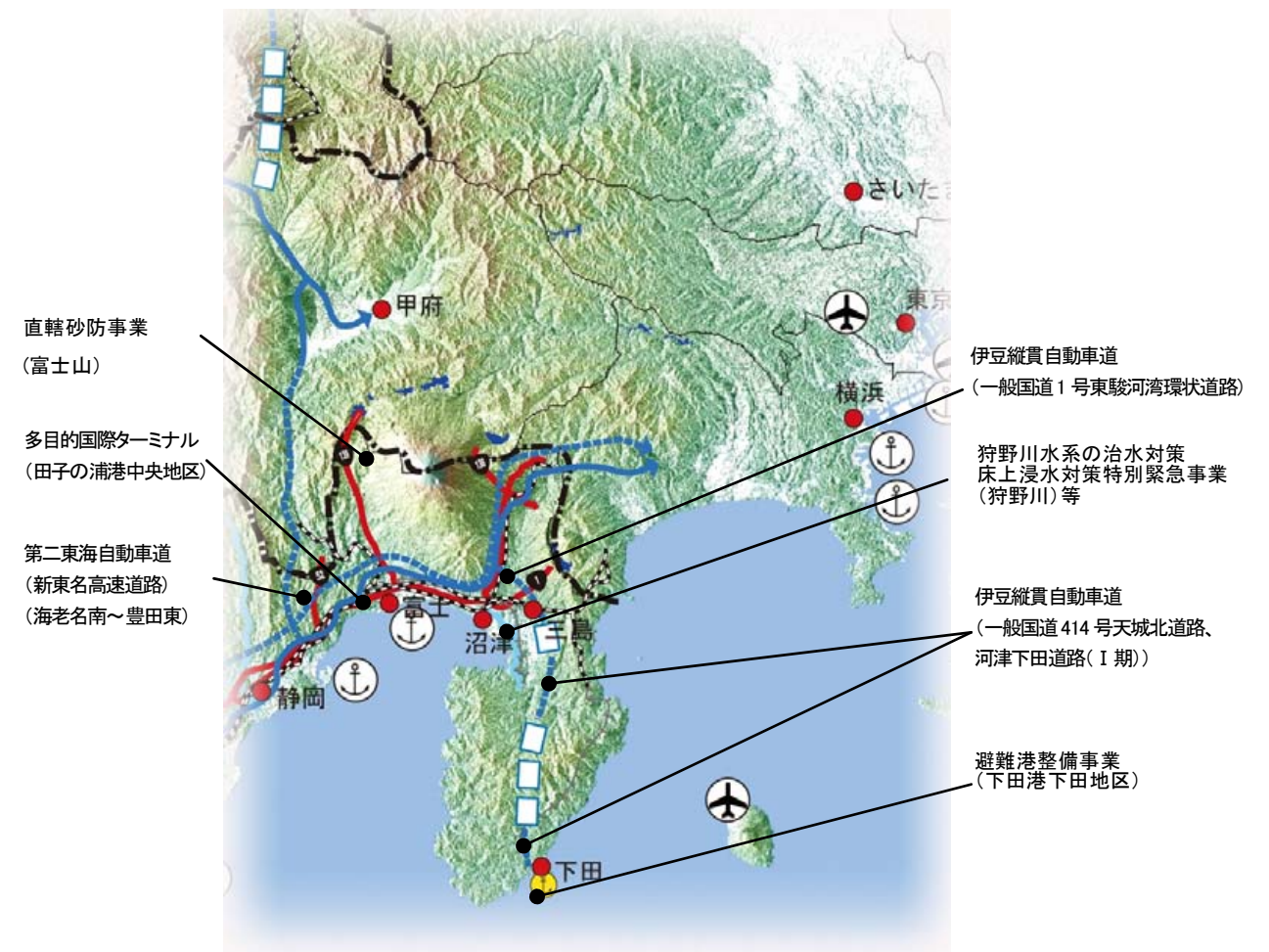
【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、規格の高い道路の利用割合や洪水の氾濫等に対する安全度、水辺の再生の割合や、観光客の増加といったアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

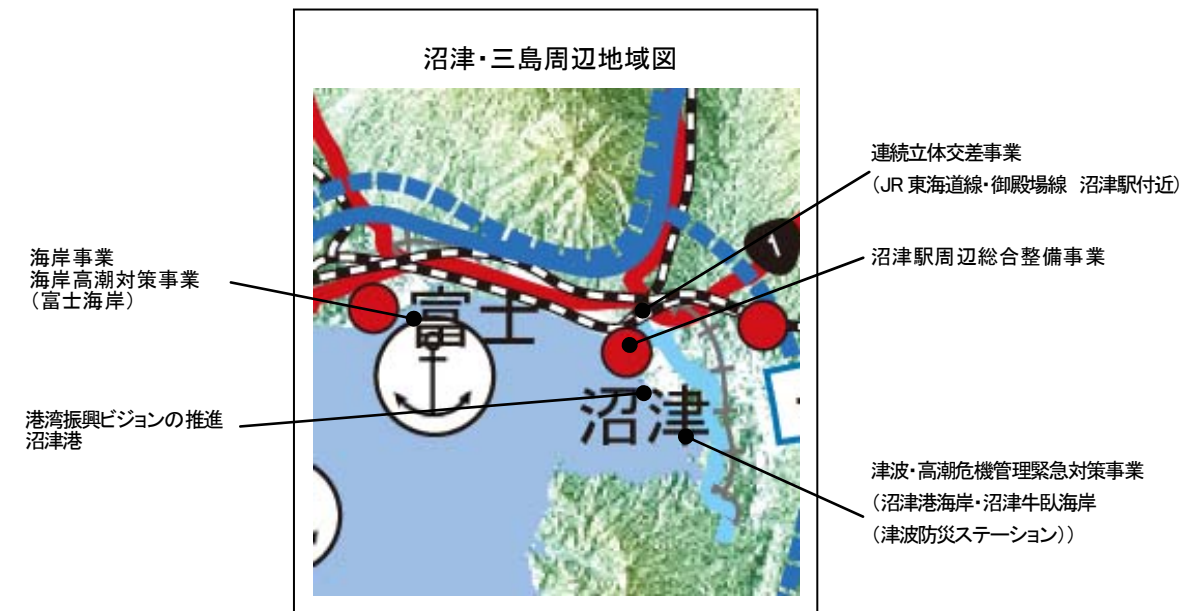
【主なプロジェクト】

⑦富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域

当該地域俯瞰図



沼津・三島周辺地域図



⑧伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・古くは、熊野那智大社など熊野三山がある熊野と、伊勢神宮のある伊勢が世界遺産に登録された熊野古道(伊勢路)で結ばれた地域。
- ・また熊野古道により、紀伊や大和(和歌山・奈良県)とも結ばれた地域。

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

伊勢神宮や世界遺産の熊野古道で知られ、海と山が入り組んだ地形など独特の景観美を有する三重県南部は、全国的な観光地としての地位を築いてきた地域です。しかし、有数の多雨地帯である気候風土で、ひとたび自然災害が発生すると複雑な地形地質構造が起因し交通網が寸断されやすく、沿岸部の集落が孤立する事態等を招いています。

そうした中、魅力ある観光資源を活かした交流を拡大するとともに、災害時の緊急輸送や高度医療施設へのアクセス機能を果たす「命の道」となる高規格な道路ネットワーク等の形成が急務となっています。

また、発生が危惧される東南海・南海地震の震源に近く、台風や豪雨災害から地域を守る、地震や高潮・津波、風水害対策などが急務です。さらに伊勢や紀伊半島中南部地域と国内外との交流圏の拡大とともに、世界遺産などの地域資源を活かした観光・交流拠点のより一層の充実が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

豪雨や津波・高潮対策、耐震対策等の強化により、台風や東南海・南海地震等の自然災害に強い地域を目指します。また、「命の道」となる交通ネットワークを確保・形成することで、高度医療施設へのアクセス性の向上とともに、近畿圏や環伊勢湾地域をはじめ国内外との交流が活発な地域を目指します。

これらにより、世界遺産や特色のある地形風土を活かした観光産業のさらなる活性化と、海洋深層水の商品化などにみる新たな産業分野の創出など、活力あふれる地域を目指します。

こうした伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域の目指すべき将来イメージを実現することで、様々な地域の魅力が向上し、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、当地域内の拠点都市と周辺地域や近畿圏を結ぶ広域交通機能の強化に資するとともに、観光地への交通集中による渋滞対策となり、紀伊半島を周遊するなど観光地間を結ぶ高速交通ネットワーク計画等について、中部地方の将来展望と、圏外も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

また、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や土砂災害対策、津波・高潮対策等について、さらなる検討を重ねていきます。

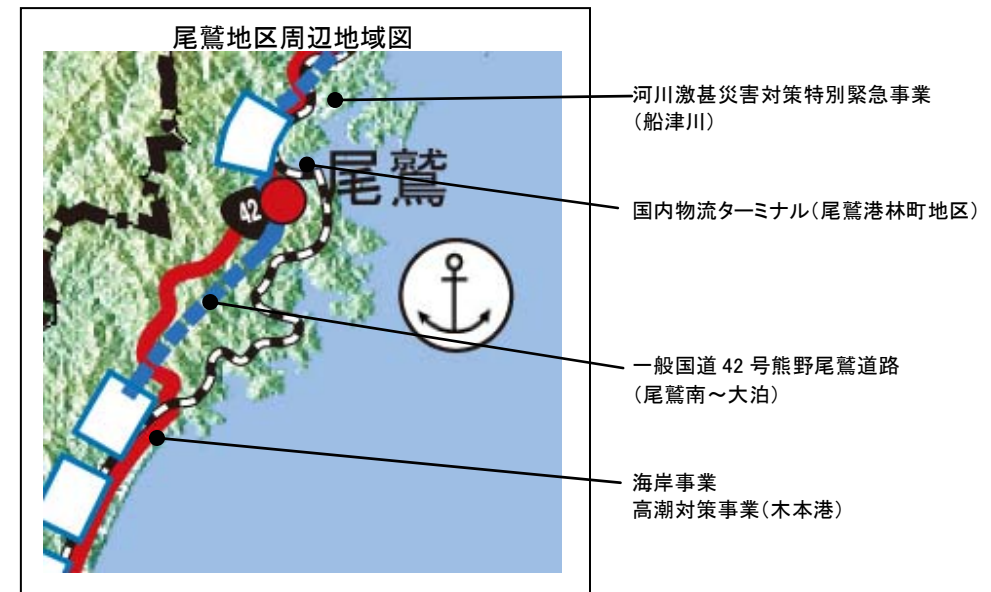
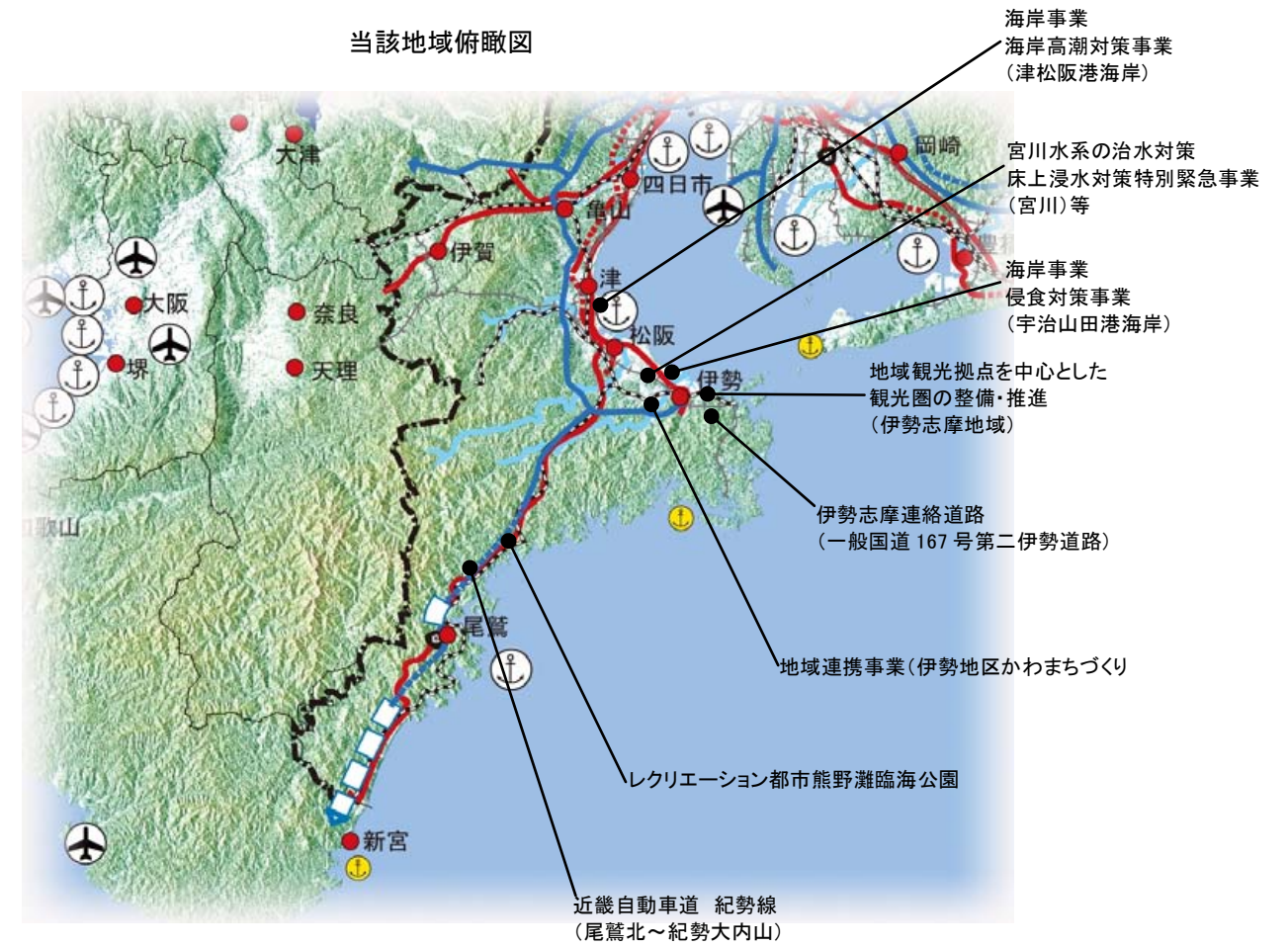
さらに、我が国を縦横断する交流軸が交わるロータリーの一翼を担う地域として、環伊勢湾地域においては、自立性の高い都市圏が重層的に連なるより魅力的な広域交流圏を目指し、多様なネットワークの形成による湾岸地域相互、湾岸地域と周辺地域の交流・連携機能の強化を図ります。

【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、洪水の氾濫や津波・高潮に対する安全度や規格の高い道路の利用割合、地域固有の資源を活かしたまちづくりや観光客の増加に関するアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

【主なプロジェクト】

⑧伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域



⑨長野と飛騨、北陸沿岸を結ぶ地域(仮称)の将来イメージ

■地域の概要

- ・古くは、富山湾の鰯を高山～信州(松本)へ運ぶ「ブリ街道」(飛騨街道～野麦街道)と、糸魚川河口から信州(塩尻)へ塩を運ぶ「塩の道」(千国街道～松本街道)で結ばれた地域。
- ・信濃川～千曲川流域で新潟とも結ばれる地域

【地域の課題への対応—強みを活かし、弱みを克服すべき取組】

日本アルプスの雄大な自然環境に抱かれた長野県北中部や岐阜県北部は、四季折々の自然景観と温泉資源等を活かし、避暑や冬季レジャーなどの観光地として発展してきた地域であるとともに、独自の歴史・文化を醸成してきた地域です。

そうした中、周辺を標高 2,000m～3,000m 級の険しい山々で囲まれ、積雪地域であることも相まって、地域内や他地域との交流が閉ざされやすい地勢条件であることから、災害時の代替補完機能も兼ね備えた、安定した交流を可能とする交通ネットワークの確保が不可欠です。

また、中山間部は日本海に注ぐ河川の水源地でもあり、過疎化の進行等による森林の荒廃で中下流域の洪水被害が懸念されるとともに、火山災害や土砂災害等への対応が重要な地域です。さらに、過疎化の進行等による活力低下に対応するため、豊富な地域資源を活かした観光・交流拠点の充実を図るとともに、関東・北陸・東海エリアとの交流を活発化し地域力を高める交流基盤の形成が重要です。

【地域の目指すべき将来イメージ】

森林の保全や流出土砂の抑制、河川整備等により、様々な自然災害に強い地域を目指します。また、一年を通じて地域内や他地域と交流・連携できる交通ネットワークの形成により、関東・北陸・東海エリアをはじめ空港を介した国内外との交流が活発な地域を目指します。

これらにより、雄大な自然景観と独特な歴史文化を活かした観光産業のさらなる活性化と、農林業を活かした自然体験等や滞在型観光などにみる新たな産業の創出など、活力あふれる地域を形成します。

こうした長野と飛騨、北陸沿岸を結ぶ地域が目指すべき将来イメージを実現することで、様々な地域の魅力が向上し、ひいては持続的に発展する中部地方を創造していきます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点でさらなる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトについて必要な整備を推進するとともに、当地域内の拠点都市と周辺地域や岐阜・石川・富山・新潟を結ぶ中部縦貫自動車道(中ノ湯～波田等)や小松白川連絡道路、松本糸魚川連絡道路、上信自動車道等の広域交通機能の強化に資する高速交通ネットワーク計画について、中部地方の将来展望と、圏外も含めた広域的な観点からさらなる検討を重ねていきます。

また、洪水・土砂災害・火山災害などの自然災害から、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や土砂災害対策等についてもさらなる検討を重ねていきます。

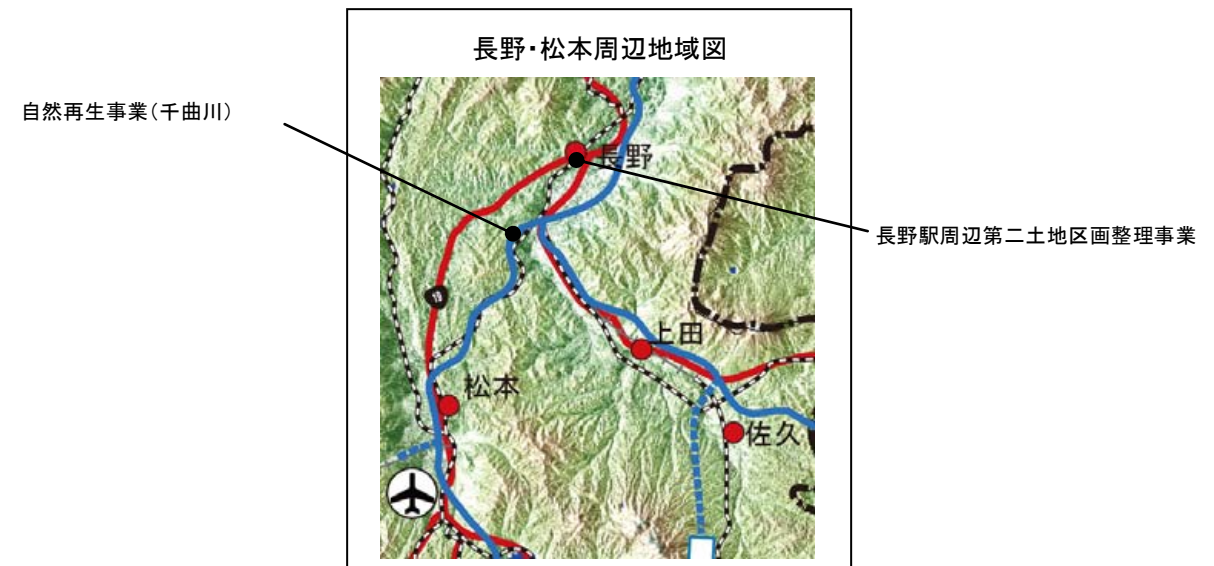
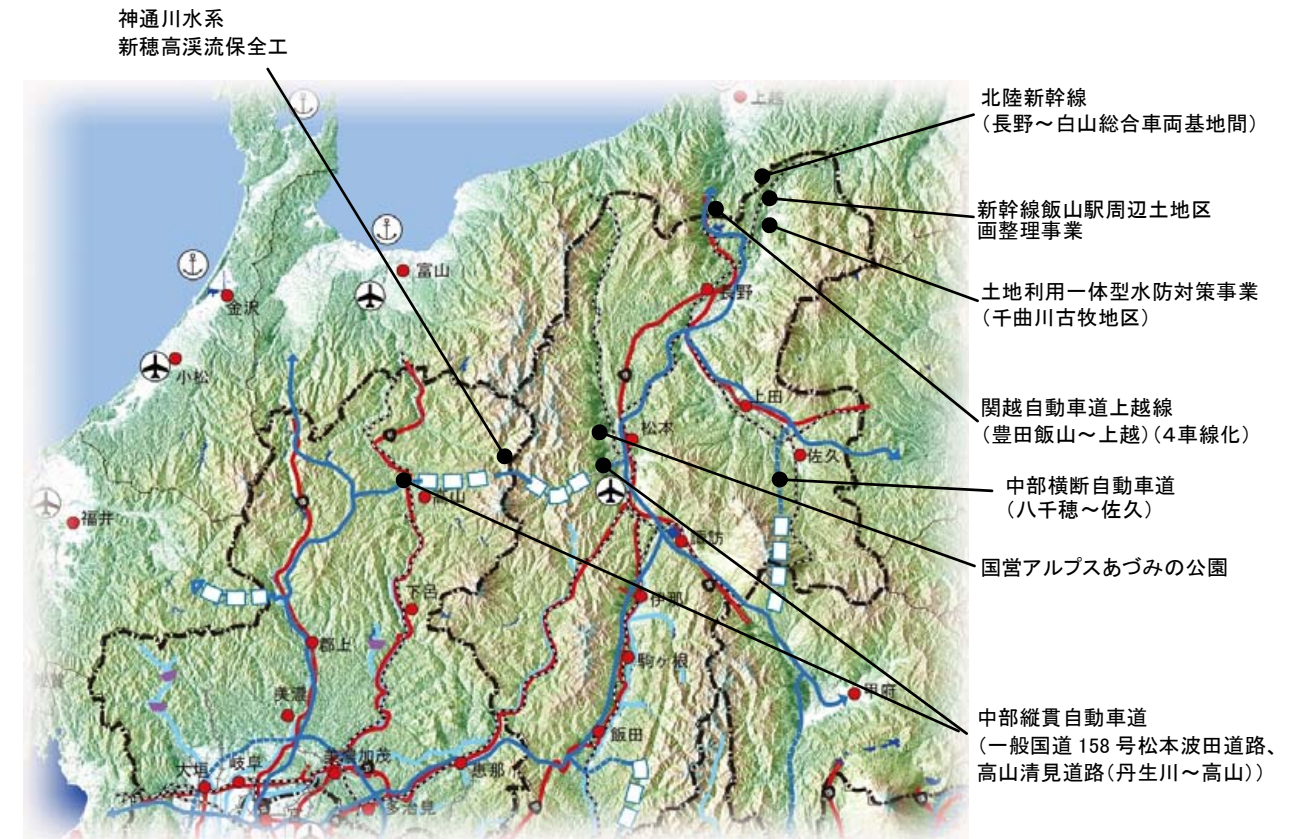
【不断のフォローアップによる将来イメージの達成度評価】

長野と飛騨、北陸沿岸を結ぶ地域で展開する様々なプロジェクトによる効果を、土砂災害に対する安全度や規格の高い道路の利用割合、地域固有の資源を活かしたまちづくりや観光客の増加に関するアウトカム指標と、住民意識(満足度)調査や経済指標などにより、時代のニーズや地域の課題をモニタリングしながら、計画内容の改善、評価、見直しを柔軟に行っていきます。こうした過程を通じて、当地域に必要な社会資本の整備を行い、中部地方の将来像を実現していきます。

【主なプロジェクト】

⑨長野と飛騨、北陸沿岸を結ぶ地域

当該地域俯瞰図



⑩中部圏全体の将来イメージ

中部圏全体が国際的に高い産業競争力と活力にあふれ、災害に強く自然と共生した地域が確保され、国内はもとより東アジアをはじめ世界各地との交流が活発な圏域となることで、中部圏に住む全ての方々の生き活きとした暮らしの提供が期待されます。さらに、バリアフリー化や交通安全対策、公共交通の活性化・再生支援や下水道整備など、暮らし密着した身近な問題解決に向けた取り組みにより、どこでも誰もが生き活きと快適で安心して暮らせる圏域が形成され、さらには愛着が持てる中部圏の形成が期待されます。

これら取り組みにより、中部地方の様々な課題を克服し、「まんなかで日本をリードする中部」を実現できます。

【主なプロジェクトと、広域的な観点で更なる検討を重ねるプラン】

右図に示す主なプロジェクトや暮らし密着した身近な問題解決に向けた取り組みについて必要な整備を推進するとともに、空の国際ゲートウェイを担う空港機能の充実・強化を図るため、中部国際空港においては、需要動向を踏まえ、戦略的構想に基づき国と地域が連携して必要な整備を図りつつ完全24時間化の実現を目指します。

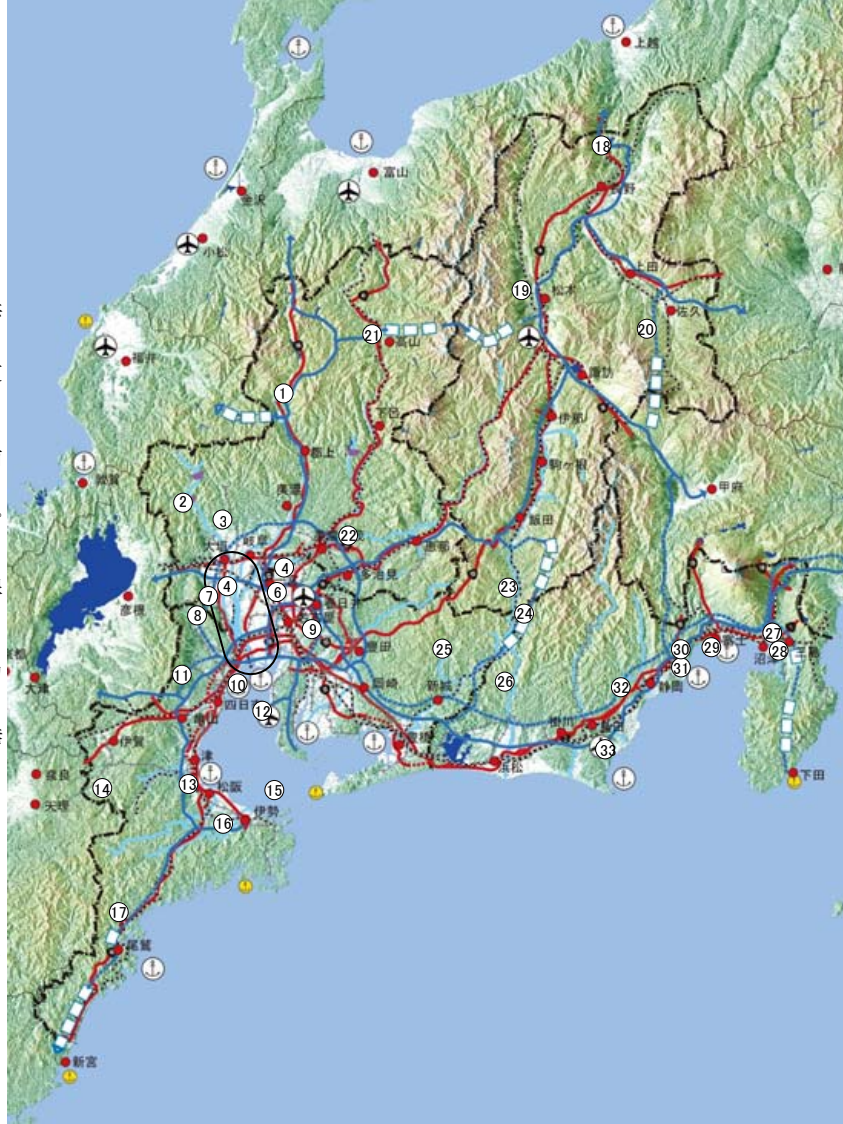
同様に海の国際ゲートウェイである名古屋港・四日市港においても、長期的視野に立って、日本のロータリーに位置する国際拠点港湾としてより一層の効率化・高規格化の検討を重ね、伊勢湾スーパー中核港湾の充実・深化による国際競争力の強化を目指します。

また、全国の広域的な連携を支え、中部圏と首都圏及び近畿圏との更なる連携強化に資する中央新幹線東京都・大阪市間について調査を進めるほか、他の交通機関に対して一定の競争力を有する超高速大量輸送システムとして実用化の技術を確認するために、走行試験等の技術開発を一層推進し、科学技術創造立国に相応しい、新時代の革新的高速鉄道システムの早期実現を目指します。

さらに、生活や社会基盤の安全安心をより高める総合的かつ計画的な水害対策や津波・高潮対策等についてさらなる検討を重ねるとともに、湾内はもとより伊勢湾流域圏の健全な水・物質循環を構築し多様な生態系等の保全・回復と、干潟・浅場・藻場等の再生や保全、市街地における流域下水道等の汚染負荷削減を図るとともに、憩い・やすらぎ空間の拡充について更なる検討を重ねていきます。

また、我が国を縦横断する交流軸が交わるロータリーの一翼を担う地域として、環伊勢湾地域においては、自立性の高い都市圏が重層的に連なるより魅力的な広域交流圏を目指し、多様なネットワークの形成による湾岸地域相互、湾岸地域と周辺地域の交流・連携機能の強化を図ります。

【主なプロジェクト】

- 
- 1 東海北陸自動車道(郡上八幡～ぎふ大和、白馬～飛騨清見)(4車線化)
 - 2 横山ダム再開発事業
 - 3 木曽川水系連絡導水路
 - 4 木曽川水系の治水対策
 - 5 国営木曽三川公園
 - 6 庄内川水系の治水対策
 - 7 東海ネーデルランド高潮・洪水対策
 - 8 東海環状自動車道(一般国道475号)(西部区間)(関広見～四日市北)
 - 9 名古屋環状2号線(名古屋南～高針、名古屋西～飛鳥)
 - 10 伊勢湾スーパー中核港湾プロジェクト
 - 11 近畿自動車道名古屋神戸線(新名神高速道路)(四日市～亀山西)
 - 12 中部国際空港の国際競争力強化
 - 13 海岸高潮対策事業(津松阪港海岸)
 - 14 川上ダム、上野遊水地
 - 15 伊勢湾再生プロジェクトの推進
 - 16 宮川水系の治水対策
 - 17 近畿自動車道 紀勢線(尾鷲北～紀勢大内山)
 - 18 関越自動車道上越線(豊田飯山～上越)(4車線化)
 - 19 国営アルプスあづみの公園
 - 20 中部横断自動車道(吉原～増穂、八千穂～佐久)
 - 21 中部縦貫自動車道(一般国道158号松本波田道路、高山清見道路(丹生川～高山))
 - 22 新丸山ダム建設事業
 - 23 天竜川ダム再編事業
 - 24 三遠南信自動車道(一般国道474号飯喬道路、三遠道路、佐久間道路、青崩峠道路、一般国道152号現道活用区間)
 - 25 設楽ダム建設事業
 - 26 天竜川水系の治水対策
 - 27 伊豆縦貫自動車道(一般国道1号東駿河湾環状道路、一般国道414号天城北道路、河津下田道路(1期))
 - 28 狩野川水系の治水対策
 - 29 海岸高潮対策事業(富士海岸)
 - 30 由比地すべり対策事業
 - 31 国際海上コンテナターミナル整備事業(清水港新興津地区)
 - 32 第二東海自動車道(新東名高速道路)(海老名南～豊田東)
 - 33 富士山静岡空港

快適で安全な生活圏を目指した取り組み

- ・歩いていける身近な公園の整備
- ・交通事故対策(事故危険箇所対策、踏切安全対策)
- ・歩行空間の整備(通学路の安全確保等)
- ・特定道路などのバリアフリー化
- ・自転車利用環境の整備
- ・誰もが快適に移動できる公共交通輸送環境の向上
- ・ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたバリアフリー化

安全で住みやすい居住環境を目指した取り組み

- ・住宅・住環境の質的向上や耐震化支援
- ・安全で安定した水の確保
- ・下水道事業の推進

愛着が持てる地域を目指した取り組み

- ・住民参加型のまちづくりや水辺・海・道づくりの促進
- ・住民、企業などが主体となった地域づくり

中部地方全域にわたる取り組み

- ・交通渋滞対策事業の推進
- ・隘路の解消、医療施設等の拠点へのアクセス強化
- ・防災対策、防雪対策、道路橋等の耐震対策
- ・洪水・内水・津波・土石流に関する『ハザードマップ』の整備
- ・沿道環境対策による大気・騒音等の環境改善
- ・水質浄化に向けた取り組み 等